

—地域社会に輪を拡げる—

# 来友館10年の歩み

軽費老人ホーム

## 来友館



昭和58年5月（1983）

—地域社会に輪を拓げる—

# 来友館10年の歩み



## も く じ

役員、職員名 .....	1
10年を振り返りみて	西座理事長 .....
お祝いの言葉	向江市長 .....
〃	植野府議 .....
〃	岸上受念館長 .....
来れや友よ(来友館の歌)	作詞 奈良吉太良 .....
	作曲 中川国生 .....
わが街 泉佐野 .....	8
屋上から眺めた風景 .....	9
職員の声 .....	10～14
佐野村から佐野町への祝い歌 .....	15
独居老人への配食事業 .....	16～17
お便より交換ノート .....	18
独居老人から給食のお礼 .....	19
開館10周年に想う — 入居者 — .....	20～22
開館当時を語る — 入居者 — .....	23
来友館10周年の歩み .....	24～39
クラブ活動 俳句クラブ .....	40
踊りクラブ .....	41
民謡クラブ .....	42
書道クラブ .....	43
お茶クラブ .....	44
園芸クラブ .....	44
カラオケクラブ .....	45
外国のホームを視察して — フランス・パリ — 西座理事長 .....	46～47
— 韓国・ソウル — .....	48
明治生れ .....	細川昌雄 .....
機関紙「らいゆう」から	
設立の思い出	西座フデ .....
各地からのお礼状 .....	52～54
子供の頃の思い出	前田カツ .....
来友館数え唄・いろは川柳	福岡肇山 .....
むかしばなし	荘司永 .....
火曜日の笑顔	西座富子 .....
来友館のご案内 .....	60～65
美しい来友館の庭 .....	66～67
リハビリ室の建設 — 10周年記念事業 — .....	68
開館10周年記念式典 .....	69～71
泉佐野市の歌 .....	72

## 役 員

理事長	西 座 正 蔵	理 事	西 座 新 二
専務理事	西 座 フ デ	〃	嶋 謙之祐
理 事	植 野 一	〃	山 崎 市太郎
〃	杉 岡 茂	〃	三 好 治 郎
〃	中 脩 三	〃	岸 上 正 暢
〃	川 村 邦 夫	〃	菊 川 順 二
〃	内 原 計 介	〃	森 修

---

## 職 員

俵積田 トシ子 (調理士)	米 津 サワ子 (調理士)
西 座 富 子 (調理士)	中 垣 多恵子 (栄養士)
田 中 重 子 (福祉寮母)	向 井 重 吉 (保護員)
葛 城 時 子 (調理士)	中 島 明 美 (看護婦)
沢 田 範 子 (福祉主事)	安 田 幸 代 (事務員)
池 浦 憲 子 (調理士)	





## 10年を振り返りて

施設長 西座正蔵

軽費老人ホーム「来友館」建設のため、昭和47年に造成工事を始めましたが、そのとき発起人の皆様には大変お世話になり、自宅において発起人総会を開きました。厚生省の認可も下りたため10月に地鎮祭を行って建設に着手し、48年3月に4階建てホームとして完成しました。5月28日に開館記念式を行いました。早いもので満10年を経過しました。

まったくの素人でしたが、軽費老人ホーム「受念館」の理事を務めていた関係で、お年寄りのことは勉強していたつもりでしたが、いざ施設長として実際に当たってみて感じましたことは、お年寄りの処遇や運営などのむずかしさでした。開館して2カ月後に88才のおばあさんの入館申し込みがありましたが、あまりの高令で自信がありませんでしたのでお断りしました。そのおばあさんは府庁の関係者に「空室があるのに入居させてくれない」と申し出たため、府庁からクレームをつけられました。が、「新米のため88才と聞いて怖くなり、どうしてよいかわからなかったのです」と説明した思い出があります。10年を経過した現在では経験も積み、機能も確充できて85才以上のお年寄りが入居されても、どうか受入れの体制が出来ました。

この10周年の記念事業と致しましては、泉佐野市周辺にリハビリテーション施設が不足しているように思われますため、寄付金や借入金、自己資金によってリハビリ室の建設を計画しています。大阪府の認可も下りたため6月1日に着工し、8月末の完成予定ですが、これによって地域のお年寄りとの交流も深めたいと思っています。

## お祝いのことば

### 敬服するアイデアと実行力



泉佐野市長 向江 昇

軽費老人ホーム「来友館」が建設されました当時、私は泉佐野市会議長を務めており、開館記念式典にも出席させて載きました。西座施設長の老人福祉に対する熱意には、いつも敬服させられますし、実際の指導責任者である奥様をはじめ職員皆様の熱意、心づかいは玄関を入っただけで強く感じられます。こうした温かい家庭的な雰囲気の中で運営されているだけでなく、アイデアも豊富で独居老人への給食サービス事業を、府下で初めて53年から開始されました。

55年度からは他の施設でも実施するようになりましたが、この給食事業に大阪府社会福祉協会も協力し、官民一体のめずらしいケースとして新聞などにも報道され、大きな行政効果をあげています。私も対外的に肩身が広い思いで喜んでいますが、この給食と一緒に市の行事や大切な問題などを、お年寄りが読み易い大きな字で書いた「お元気ですか」のお便りを添えるなど、行き届いたサービスで感謝されています。

老人の健康管理に対する気配りにも熱心で、近く中風など後遺症のためのリハビリテーション施設を、ホームに隣接して建設されると聞いています。完成すれば地域利用者から喜ばれると思いますが、他に先んじて実行される西座施設長のアイデアと、行動力にはただ敬服するばかりです。

お祝いのことば

理事の一人として



大阪府議会議員 植野 一

桃栗3年、柿8年という言葉がありますが、つい、この前設立されたように思っていた来友館も早や10周年を迎え、私も理事の一人として歳月の経つ早さを感じています。

昨近の経済諸情勢は混乱し低迷を続けているなかで、老人憩いの家の運営にも、いろいろな課題が積み重なっていると思いますが、施設長はじめ理事、職員の皆様が協力して、老人福祉の推進に努力されている姿に感謝致します。入居者の方々は明治、大正、昭和の時代を生きて来られ、地域社会のため、また国家のために頑張っておられた人達ばかりです。そうした人達が老後を楽しく、愉快地に過ごす施設であります。

入居者の作品展を拝見致しましたが、いつも記念行事には一致協力して参加され、各階で楽しんでおられる姿をお見受けしてうれしく思います。来友館も第2期工事としてリハビリ室の建設に着手しますが、このように来友館が発展しますことは、皆様のご協力の賜ものであると思います。この10年を契機として、さらに内容を充実させるよう今後一層の努力をお願い申し上げます。

## お祝いのことば



受念館理事長 岸上正暢

同じ軽費老人ホームを経営している私と致しまして、その苦勞を知っているだけに、こんなうれしいことはありません。「もう10年になったかなあ」と誰よりも喜んでいる者です。ほんとうにおめでとうございます。西座理事長ご夫妻には老人福祉の重要性を痛感され、寝食を忘れて雨の日も嵐の夜も、この第一種社会事業に10年1日の如く専念されました。

10年ひと昔と申しますが、この間大した事故もなく運営すると言うことは、並大抵なことではありません。その熱意、誠意、努力には深く敬意を表します。西座理事長と私は京都の学校に通っていた時代からのつき合いで、丁度50年になります。ヤンチャの悪友でしたが、学生時代は心齋橋筋をウロウロして、コーヒーを10パイも飲み歩いたと言う記録があるくらいです。筆子奥さんが嫁に来られる際の荷物が岸和田の港に着いたとき、提灯を持って迎えに行ったことも覚えています。

同じ軽費老人ホームを運営するようになってからは、施設長の会合があるたびに全国北海道から沖縄まで、ご夫婦と小生夫婦が共に参加することになっています。これからもホームの運営に一層の努力をされることと思いますが、なにぶんにも今後のホーム運営には多くの課題を抱えています。皆様の物心両面からの暖かいご支援、ご鞭撻を載きますようお願い致します。



# 来たれや友よ

(来友館の歌)

作詞 奈良 吉太良

作曲 中 川 国 生

1. 淡路ヶ島に 雲流れ

波路はるか六甲の

山々望む この館

来れや友よ 来友館

2. 感謝に日々を暮しつつ

清く正しく 明るくて

一つ家族の この館

来れや友よ 来友館

3. 若きあの日を想いつつ

静かな明日を望みつつ

みんな仲良く この館

来れや友よ 来友館



# 来たれや友よ

(来友館の歌)

中川国生 作曲

安則和子 歌

Musical score for the song "来たれや友よ" (Come, my friend). The score is written in 4/4 time and features a piano accompaniment and a vocal line. The key signature has one flat (B-flat). The score is divided into five systems, each with a vocal line and a piano accompaniment. The lyrics are written below the vocal line. The first system includes the word "Melody" and the number "1. あわ". The second system includes the lyrics "じがしま" and "くも". The third system includes the lyrics "じはるか" and "る". The fourth system includes the lyrics "やまのそ" and "むこ". The fifth system includes the lyrics "れやとも" and "よ". The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamics like "p" and "pp".

1. あわ

じがしま くに くも ながれ なみ

じはるか くに る っこう の やま

やまのそ むこ の やか た きた

れやとも よ らいゆり かん

## わが街 泉佐野

泉佐野には古い歴史があり、その名の起りは狭野、つまり小さな野原という意味であった。樫井、佐野、見出川の氾濫で出来た野原は、5世紀ごろから開発が進められ、大化の改新による法令政治のころには近義(こぎ)、加美、呼於(たお)、鳥取の4郡を形成し、長い間土豪の日根野氏が統治するようになった。南北朝の動乱においては戦場となり、応仁の乱でも大きな被害を受けて土一撥も起ったが、郷村に秩序の芽が生れて自治が発達するとともに、文化も育って行った。



しかし、戦国時代に入って根来寺の勢力下におかれ、信長の石山合戦による追討、秀吉の根来攻めの戦場となった。また大阪夏の陣では大阪方と徳川方が泉佐野で接触し、樫井の合戦で大阪方が敗北するとともに、塙団右衛門などが戦死している。秀吉が天下を統一し、朝鮮出兵を計画した際に佐野漁民は水先人として活躍したことから、恩賞として対馬の漁業権が与えられた。それによって莫大な利権を得ることができ、五島列島にも大型船で佐野網組を構成し組織で進出するようになった。これを契機として海運業に大きく飛躍するようになったが、元禄12年の記録では佐野村に600~700石積船が7船、300~550石積81船、80~200名積41船など、その他漁船など306船という多大な船を所有していた。

(屋上からみた佐野の海、  
遠くに淡路島を眺む)

こうした繁栄の波に乗って食野・唐金の豪商が全国的に活躍したが、食野家のいろは48蔵は最近まで残っていた。また製油、製糖、棉の栽培も農家の副業として盛んになったが、明治に入っては玉ねぎの産地として、産業では綿織物が発達してタオルの町泉佐野としても広く知られ、ワイヤロープ産業の進出、最近では泉佐野沖が関西国際空港の有力候補地として脚光を浴び、さらに大きく発展しようとしているのである。



(南海本線泉佐野駅方面を望む)

## 来友館屋上から眺めた風景

( 豪商唐金屋の邸宅  
塀庭松の中 )



( 南を望む右向りが現在  
泉佐野第一小学校にな  
っている食野家の跡 )

( 来友館に通じるすぐ  
近くの道路右側、低  
いカワラ門が豪商矢  
倉家の屋敷跡 )



## 開館満10周年を迎えて

専務理事 西 座 フ デ

うららかな日光を浴びて、枯木のように見えていた樹木に美しい花が咲き、淡い緑の葉が萌える希望に満ちた季節が今年も巡ってきました。このよき5月28日に開館満10周年記念を迎え、さらに11年目に向けて努力したいと思います。

思えば長女、次女とも嫁ぎ、次男は寮生活となって、家の敷地も広いということから、知人の推めもあって軽費老人ホームの設立を決心致しました。当時の軽費老人ホームは府下に7カ所、全国で72施設でした。それが現在では府下で22施設、全国で220施設と増加しています。養老院という名前をご存知でも、軽費老人ホームという名前は殆んどの方がご存知なかったのではないのでしょうか。戦後日本でも家族制度が崩れ、核家族化が進む中で老人の方は、なにかと遠慮がちに暮されている時代でもありました。

開館当時を振り返って見ますと、施設長はじめ職員一同も素人でありました。施設長の「快適で家庭的な雰囲気の意味ある生活を入居の皆さんに送って下さるよう」に」という希望のもとに、なにかと模索しながら10年という歳月を無事に経て参りました。これも偏に皆々様のご支援、ご指導の賜と深く感謝しています。

開館当時にはなかった職員の位置づけが、施設の増加にもなって次第に必要性が求められ、福祉主事福祉寮母の資格もでき、2年前にはそれぞれの資格を持つ職員が誕生しました。こうした職員に護られて、現在入居されている最高令の方は91才の女性、健康で頭脳明せき、一番若い方で65才、平均年令は78才ですが、皆さんは楽しく暮されています。

行事としましては、2～3年目までは一日行楽や誕生会・盆踊りは5階の屋上に地域の皆さんを招待して、本格的に近い形で行いました。その後、俳句、踊り、民謡、茶道、書道、手芸、園芸、カラオケの8クラブが結成されましたが、このほど手芸クラブは先生の都合で休部することになりました。その他1年に2回の1泊旅行、春秋の1日行楽、毎月の誕生会、月報らいゆう発行、年3回の小冊子「らいゆう」発行、毎月の法話、4階のサンルーム、毎月2回喫茶店開催など、利用の場から生活の場へと変わっています。

特別事業としては54年12月30日から地域社会の交流として、泉佐野市全域の独居老人を対象に、お正月用おせち料理を作って希望者に配食しました。

それ以後は毎月火曜日毎に市内の4施設が同じ献立てで、150人の独居老人に配食していますが、ボランティアの方達にもお世話になっています。希望される方には配食の度に食後のデザートがわりに、お便りを差しあげていますが、先様から感謝のお便りを頂いて、とても喜ばしい交流となっています。

少し話は変わりますが、最近「老人痴呆」という言葉をよく聞きます。これを防止するには知恵の衰えを防ぐことが大切です。壮、老年期における日常の知的活動の内容が豊かで、幅広いほど知的機能は刺激され、よりよく保たれると書かれていますから、日頃から頭脳を活用して共に身体も適当に動かすことが大切だと思います。今後とも職員の資質の向上に努めたく、入居の皆様も心身とも健康でありますようお願い致します。

## 栄養士として

職員 中 垣 多恵子

栄養士として在籍し3年と少しになります。つまりホーム生誕の3分の1を歩んだことになります。石の上にも3年というように、ようやく自分なりの栄養士としての路線をひくことが出来るようになったと思います。

入居者の方々を乗せて走るほどの馬力ある電車としては、まだまだ出来ませんがデスクワークで終らせてはいけない職務だと思いますし、私自身まだ23才です。入居者の方から見れば3分の1にも満たない小娘ですが、この来友館が零才より徐々に成長し、安定してゆとりのある居住地を入居者に与え続けていけるように、私も食を通じての心の通い合い、健康を提供して行きたいと思っています。

職員 俵積田 トシ子

来友館の開館と同時に職員として採用されました。当初はなにもわからず不安もありましたが、今日まで勤められましたのも皆様のお力添え、ご協力の賜と感謝しています。開館当時からの14人の入居者の方達は、なにかにつけて印象が深く、また退館された方達の思い出もなつかしく思われます。私も調理師免状を取得することができ、料理も好きですから、今後も一層美味しい食事をと心がけています。

## 機関紙「らいゆう」に思う

職員 沢田 範子

来友館の開設と時を同じくして機関紙「らいゆう」1号が創刊され、今はもう21号の発刊となっています。らいゆうは来友館のオリジナル和紙の表紙にファイルされていますが、初刊号からのページをめくってみますと、さまざまな思い出の記、そして多くの方の面影が忍ばれ、10年の歴史が感じられます。

先ず48年6月1日に初めての入館者があり、喜びと不安の職員の手記、設立に際して提出書類に一字の欠字訂正のため、わざわざ東京の厚生省まで赴いた先輩職員の苦勞談。そして3周年の「設立の思い出記」には、設立が具体化した頃よりの専務の入院、そして自宅療養、設立にともなう各関係当局への膨大な書類の作成・建設中にオイルショックが起り、資材高騰のなか業者の協力で事なきに至ったことなど、察するに余りある苦勞が克明に記されています。

また俳句クラブ発足には、今は退館された小左古さんの尽力のあった記事、「夜回りあれこれ」の記にみる当時の宿直者の心得、スリッパを室外に並べて置くことで在室を知らせる合図になったこと、これは現在も守られています。入居者の一泊旅行の思い出や、入館者のクラブ活動、各種行事への感想文など、その日々の出来ごとが昨日のように思い出されます。

設立満10年にしてこれだけの歩みが、思い出として残されています。これからも入館者と来友館・職員・関係をもたれる方とで育てゆき、来友館での日々を大切に生きてきた証しとして刻み、皆様の伴侶として「らいゆう」を座右に置くよう発表して行けたらと思う心でいっぱいです。

## 心のふれ合いを大切に

職員 米津 サワ子

青葉、若葉の好季節、陽光さんさんと降りそそぐなか、クリーム色の建物がくっきりと地上に誕生して、はや10年の佳節を迎えることになりました。この泉佐野の広々とした海と、緑の山々を一望に見渡せる風光明媚な来友館にも入居された方々にも10年の歩みとともに歴史があったのではないかと思います。

昭和45年5月28日の開館当初は、オイルショックで経済状態も大変なときでした。それ以後も高度経済成長・生産過剰・世界的経済不況・福祉引き締

めなど、困難な時代の連続でした。また入館者の方々の諸問題など、筆舌につくしがたい苦難や喜怒哀楽が10年の歳月の中に包含されているように思われてなりません。これら、いろいろの事柄を乗り越えてこられた施設長や専務さん、先輩職員の努力、入居者の方達のご協力に感謝せずにはられません。私が務めましたのは54年6月1日からで、来友館もかなり安定した頃でした。

あれから約4年の間にも、入居者の憩い場としてのサンルームの増築、独居老人への配食事業、月2回のホーム喫茶開店、そして灯油や煉炭倉庫、漬物置場の設置、調理場では電気おろし器や、見た目にも美味しくという配慮から、食器もいろいろと購入されました。過去を振り返りますとホームの皆様は、衣食住に事欠く戦時下を生き抜かれ、ご苦労の多かった年代の方々です。少しでも安穏な生活を営んで頂けるよう、職員である私も心の病いの多い混迷の時代といわれる現在、心と心のふれ合いを大切に、多角的に視野を広めて仕事に精進して行かねばと心を新たにしています。

## 熱心な踊りのけいこ

職員 葛城 時子

年に一度の開館記念日と南御堂福祉大会、敬老の日を目標に踊りクラブは、毎週水曜日の夜7時からけいこをしています。とくに5月は開館満10周年とあって熱が入りましたが、指導して下さるのは踊りクラブ結成以来9年間、雨の日も風の日も休むことなく教えに来て下さいます上の郷谷先生です。3年前までは女性ばかりでしたが、今では男の方もクラブに入られて一層楽しくなりました。

先生が来られるまでにおさらいをし、年に2～3曲の新しい踊りを教わりません。始めは1.2.3の合図で右足からとか、左手をあげて身体を真すぐにと言いながら教わりますが、覚え易い踊りもあれば、むづかしい踊りもあります。でも皆んな一生懸命に手足を動かしますが、思うようには行きません。ここがむづかしい、これでよろしいかと言いながら、先生に手を取って教わったり、時間の経過するのも忘れて踊りに夢中になるのも楽しいひとときです。踊りは手と足を動かして頭で覚えるため、お年寄りの運動には最適ではないかと思いません。リズムに乗って手足を動かし、頭の中で整理すると頭の体操にも役立つ踊りクラブ、これからも一層の努力を願ってやみません。



## 福祉寮母として

職員 田 中 重 子

泉佐野は、大阪と和歌山の中間にあり、タオルとタマネギの産地として有名です。少し遅れて製線が栄えてきましたが、時代とともに移り変って、今は泉佐野港の新鮮な魚貝類・青空市場が有名になりました。こうした泉佐野の町並みの一角に、10年前軽費老人ホーム来友館が開設されました。

温い風に乗って窓から入る磯の香りは、また格別で子供の頃の感想を思い起します。10年前の9月、主婦であった私は秋風が強く通勤が身に感じる年で、来友館の職員として仕事をするようになりました。福祉とは何であるかも会得しない私に、老人が理解できるだろうかと思う心が先に立ちましたが、体当りの精神で今日まで務めてきました。こうして人間関係や老人心理と介護、研修の目的、ケアと、一步一步ふみ出して寮母職を身につけることが出来ました。

仕事について最初は調理方でした。何をすることも沢山の献立てと下仕事があるため、戸惑うことが多くて調理の本を手にする事の毎日でした。施設長から調理師の資格を取って見てはと言われ、勉強を始めましたが家庭との両立で思うように進まず、途中で「やめたい」と言葉に出したこともあったが、家族や施設職員の励まして調理師の資格を得ることが出来ました。

仕事も大分手について来ましたが、次は寮母職の資格です。大阪府社協の寮母研修を9日間、続いて大阪府老人総合センターでの研修を7日間受け、福祉寮母の第3期生に応募しました。前期5日間、後期5日間を箱根芦の湖ホテルの講習会に参加し、福祉寮母の資格を収得しました。10年前に子育てで家に居たとすれば、福祉の心を育てることなく、態度や姿勢、努力といった言葉も口にすることはなかったでしょう。今ここで言えることはホームにおける健康の面、日常生活の機能がいかに維持されているかに目を向け、福祉の処遇と取組み、老人に対する職員の対応をどこまで理解して、ケアできるかが私の頭を悩ませます。

# 佐野村から佐野町への祝歌

The musical score is written on four staves in G major and 4/4 time. The lyrics are written below the notes.

カ ス ミ コ メ タ ル カ ツ ラ ギ ノ ミ ネ  
や ま あ り う み あ り さ ん ぶ つ し げ く

ミ ー ド リ タ ダ ヨ ウ チ ヌ ノ ウ ラ ナ ミ  
せ ん な ん ぐ ん の ち ゅ う お う し め て

コ コ ニ タ チ タ ル ワ ガ サ ノ ノ マ チ  
い く よ さ か え ん わ が さ の の ま ち

イ ワ ヘ ヤ イ ワ ヘ イ ザ モ ロ ト モ ニ

佐野村から

佐野町への祝歌

霞こめたる 葛城の峯  
碧ただよふ ちぬの浦波  
ここにたちたる わが佐野の町  
祝へや祝へ いざもろともに

山あり海あり 産物繁く  
泉南郡の中央しめて  
幾夜盛えん わが佐野の町  
祝へや祝へ いざもろともに

## 地域社会との対話

### 独居老人への配食

西座理事長のアイデアで独居老人への配食が、53年12月30日府下で初めて18名に、おせち料理として贈られました。54年からはボランティアグループの協力もあり、毎週火曜日に昼食として配られるようになりました。この配食には読み易い大きな字で「お元気ですか」の便りが添えられ、楽しい食事が出来ると喜ばれています。

### 給食に手紙のデザート

(朝日新聞57年9月25日から)

独り暮らしの老人に給食サービスする自治体が増えているが、泉佐野社会福祉協議会から老人給食の調理を委託されている軽費老人ホーム「来友館」は、給食に手紙を添えて配達しており「食べることと読むことが楽しめて」と、お年寄りに喜ばれている。同市では社会福祉と市内の老人ホーム、ボランティアグループが協力して、53年12月から府下で初めて週一回(火曜日)の本格的な給食配達サービスを始めた。現在は65才以上の独り暮らしの老人126人の自宅に、保温器に入った温かい昼食が届けられている。

調理は市内の四つの老人ホームが分担しているが、そのうち市内西部の37人を受け持つ来友館は、スタート当初から給食に手紙を添えている。最近では老人側から返事も届くようになった。手紙は西座理事長や同ホーム職員が書くが、気候や健康管理のこと、市内の出来ごと、お知らせが主な内容。市の広報や新聞記事を紹介することもある。「独り暮らしの老人の中には新聞をとっていない人もあり、少しでも最近の身の回りや社会の動きを伝えてあげたいと思って、それに手紙が老人とボランティアの交流のきっかけとなれば」と西座さん。

火曜日に配られた給食の保温器は木曜日に回収され、老人からの返書5~6通が入っている。給食のお礼や献立についての感想がほとんどだが、最近では老人医療一部有料化など、老人問題についての意見を書いたのも見られる。お年寄りの中には手紙を読んでから給食を楽しむという人が多く、来友館はこれからも手紙付き給食は続けると張り切っている。

## 配 食 事 業



(給食はさめないよう保温器に入れます。)

来友館では53年12月30日に独居老人18名に対して、おせち料理を作って配食をしました。これは大阪府下で初めての配食事業で、54年からは泉佐野市、東大阪市、大阪市城東区の3地区で定期的な配食が進められ、55年からは全国各地で実施されるようになりました。

とくに泉佐野市では98名という多数の配食が行われ、全国の社会福祉関係から視察に見えますが、この配食のため来友館職員は調理研修に参加して給食の研究を進めました。料理作りには食中毒の防止に心がけ、栄養のバランスにも注意をはらい、少しでもおいしく食べて頂けるよう味付けし、調理内容も豊かにするよう努力しています。



(車で老人宅に配達されます。)



(配食の献立と手紙)

## おたより交換ノートから

お元気ですか

58年4月26日

つつじの花の開くのが待たれる季節になりました。4月13日に市の社協で配食会議が行われ、来友館は38食分の給食を受け、皆様にお配りすることになりました。私達ホームの職員も新年度で心を新たに配食の仕事に、心を配りましょうと話合ったところです。

配食をお休みしていた間に保温ジャーも完全消毒し、気持ちよくお食事して頂けることと思います。ジャーの回収は昨年通り木曜日にさせていただきますから、よろしく願い致します。次回5月3日はお休みです。お忘れになりませんようにネ。

57年12月31日

つぎのお品がき通りのおせち料理をお届け致します。数の子、黒豆、田作、酢れんこん、イカのウニ和え、ブリの塩焼き、菊花かぶら、若とりの照焼き、梅花たまご、紅白かまぼこ、日の出えび、煮しめ、栗きんとん、梅花ようかん。気ぜわしくお過ごしでしょうが、やがて日も暮れますと、各寺院が満天の星に響かせて撞く百八つの鐘を聴きながら、新しい年を迎えます。来年も皆様が健康で過ぎて頂きますよう、職員一同お祈り申します。

来年の配食開始は1月25日です。

57年9月14日

敬老の日は、多年にわたって社会につくして来られた老人に感謝するとともに、老後の安定を願って祝日と定められました。明日の敬老の日を健やかに迎えられますよう、お慶びを申し上げます。これからも長年にわたる人生経験の知恵を若い人に伝えて頂き、明るい社会を築く柱となって活躍して下さいますよう、お元気で過ごされるようお祈り致します。

来友館より長寿をお祝いして、さわやかですが、おまんじゅう、あめ、サイダー等をお届け致します。

## 独居老人から給食のお礼

奥野テルさん

給食のふたを開けたとたん思わずバンザイと歓声があがりました。ありがたい、優しい心づくしの品々、しばらくは見とれ、それから美味しく頂きました。皆様のチームワークのよさ、温かさがひしひしと身に感じられます。作って頂く方々のご苦労に心からお礼申し上げます。

花も見ごろとなり近くのどこかに行きたいけれど、どこにしようかと迷っていたところ、はからずも来友館から中座の松竹新喜劇の券を頂き、ただ驚きの一語でございます。平素はなにかとお世話になるばかりの私に、これはまたどうしたことかと、お礼の申しようもございません。今年は花見をとりやめ、これこれと決めてしまいました。勝手なものです。久しぶりで生演劇が観られると心はずませています。

日根さん

毎週火曜日ごと、今日はどんなご馳走が頂けるかと、その日をとても楽しみにしています。給食のふたを開けた瞬間、バラエティーに富んだ数々のお料理に季節の香りがただよい、ああ、もう春かな、秋かなと四季それぞれに楽しませて頂いています。先日のバラずし、桜もちなど、料理を作って頂く方の心づかいがしのべれます。とかく1人では手のこんだ料理は出来ませんし、つい面倒くさくなりがちですが、こんな美味しい料理が昼に頂けるなんて夢のようです。

森ヤス子さん

本日のお弁当は三色のうの花、よく肥ったカツオの煮付け、やわらかいおひたし、しその実の香りゆたかなお漬物、大変おいしく頂きました。防犯運動も1人ですと留守になりがちのため、よく注意を致します。また本日は私の眼病をお尋ね下さり、いつも変らぬご親切を有難く思います。いま和歌山の労災病院眼科の世話になり、少し楽になりましたが失明しないよう注意して生活しています。

## 開館 10 年に思う

入居者 神 吉 英 子

ホームで生活するようになって、早や5年の歳月が夢のように過ぎました。当初は親子離れて暮すことに多少の不安を感じ、団体生活に1つ、2つとつまづき、世間知らずのわがままものと反省し、寮母さんの温い指導に励まされました。入館当時の食堂は長いテーブルでしたが、しばらくして丸いテーブルに替り、4カ月に一度の席替えて違った友達と輪を囲みます。

ある日「きずしの嫌いな方は」と聴かれたので、ハイと応えました。それ以後は親も及ばぬ職員さんの心づくし、きずしの代食のときは目頭のうるむ思いです。私共の年代は体力・気力が衰えても、昔の教訓は若い者に負けないと思っています。この精神で孤独に落ち入らないよう、また戦争時代を思い出し、満つれば十六夜の如くとやらで、何事にも満足し、自分の健康をもっとうに明るい心で毎日を送っています。

入居者 矢 倉 音 吉

あっと思う間に入居して3年が過ぎました。その間泉佐野病院に入院、泌尿科で手術を致しましたが、現在は元気で暮しています。年令に負けず毎朝の体操にも参加し、夏期には運動のため朝6時から自転車です市内を一周して帰ります。人出も少なく自転車もあまり見当りませんが、安全運転を守ってスピードは出しません。それでも7時までには帰れますが、空腹の朝食の味は格別です。

入居者 太 田 タカエ

集団生活は初めてのことから、入館に際して不安を感じていましたが、さて生活を始めて大変楽しくなりました。過去にいろいろのことがありましたが、入居して10年間は毎日を本当に平凡に過ぎて来ましたが、ホームでの生活を楽しくするのも入館者同志の信頼と、協力が大切なことだと思います。これからは健康に留意して、これまでのような生活が体の動く限り続けられるよう念じています。

入居者 東 浦 文 太 郎

昨年3月に入居して1年が過ぎました。過去を振り返ってみますと、小心なるがゆえに些細なことが気になり、煩わしさからの逃避のため酒を飲んでいて日の多かったこと、いまは反省の念で心を痛めています。悩んで飲んで酔が覚める頃には、身体の不調を感じて結局は何の解決も見ずに、ただ不快な思いが残るばかりでした。こんなことをしてはと思っているところに、朋輩や職員さんからの忠告や励ましの言葉があり、迷惑をかけてしまつてと悔んでいる自分の愚かさを情けなく思いました。



私には孫の父親がわりとして相談に乗ってやらなければならない大役がある筈なのに、自分のことで、それも些細なことで悩んでいる場合ではないのだと心に誓って、在館2年目からは心も新たに老いの日々を過して行く所存です。職員の皆さん、入居の皆さん、もし挫けるようなときがあれば励まして下さい。

入居者 T. K 生

10年ひと昔と申しますが、振り返りますと様々なことがありました。歯の抜けるように入居者も変わり、開館当時の人は残り少なくなってしまいました。大きな悲しみ、小さな喜び、陰につけ陽につけて思いおこすことのみですが、福祉事業に始めて携わられた館長ご夫妻も、この10年間のご苦勞は一方ならぬものであったと感じられます。

もめ事や相談を持ち込まれる職員さん、また全員の食事を担当して栄養のバランスまで考えたご苦勞、協力と和がなければ出来ないことと感心しています。年2回の1泊旅行、歩こう会にしろ、種々の行事を通して心のこもった対応をみて、現実の生活を冷静に見つめる心境を自然のうちに知り得たことは、残る人生に大きな勉強をしたと感謝しています。

おもむろに 季移りゆき老いゆくも

思い新たに明日を夢みる。

(入居老人会の世話役  
近藤妙子さん)





### 入居者 北 条 ツルエ

入居しての10年間は、あっと思ふ間の出来ごとのように感じますが、それだけ楽しんで生活が続いたということです。思えば当時のメンバーは大半が入れ替わりましたが、庭の樹木は青く繁り、変らぬ風景で目を楽しませてくれます。松、竹、梅栄えて青葉の中に、四季の花などを朝な夕なに眺め、心を支えてくれるような楠の樹木など、庭を一回りするだけで安らぎます。

ホームの一泊旅行、歩こう会、いろいろな催しも健康であればこそ参加でき、良き思い出としての喜びが感じられます。



### 入居者 三 好 綾 子

開館10周年を迎えましたが、この佳き日をお祝いして入館者一同も大いに張り切りました。10年と言えば随分と長いようでも、経ってみれば短く感じられます。この間には悲喜こもごも、いろいろのことがありましたが、事故もなく過して来れたのは皆様のお蔭と感謝しています。こうした恵まれた環境であっても、私達がじっとしていたのでは足腰が弱くなるばかりです。趣味を活かすとともに適度な運動を行い、何か一つのものに挑戦して11年目に向っての新しい希望も持ちたいと思います。明るい笑顔で生活できるよう努力しましょう。

(来友館を訪問した配食先の  
独居老人 右から2人目は西  
座専務理事)

### 入居者 小 島 ハ ツ

開館10周年の記念日を迎え、入居者一同とともにお祝い申し上げます。入居して10年は夢のようであり、皆さんと共に楽しく過ごさせて頂いています。健康と栄養を考えた和洋の料理は美味しく、家では出来ない昼間からの入浴、部屋のくつろぎにわが身の幸せを感じます。

### 入居者 坂 本 ア イ

ホームに入居して早や5年が経ちました。老人医療費高の昨近を病院通いすることもなく、健康保険を利用しなかったことで泉佐野市から、2年間連続で褒美が頂けるほど健康に恵まれています。入館当初は俳句を楽しんでいましたが、考えることより安易なテレビを見ることの多いこのごろ、また俳句に挑戦しようと思っています。

## 開館当時を語る

(入居10年の皆さん)



最初の入居者は福岡肇山、千野ミネ、弘津テルさんの3名でしたが、49年5月までに入居され、現在もホームで元気に生活されている方は、西沢タカ・小島ハツ・藤井フサコ・南野ヤナ・三好綾子・田中ヤエ・北条ツルエ・鎌田ヤエノ・大家やす子・太田タカエ・上総シズエ・近藤妙子・吉田シズノ・永田ムネの皆さんです。

この入居者皆さんの話によると、49年9月15日の敬老の日かくし芸大会は、刈尾ことゑさんと岡田さんで寛一、お宮「熱海の海岸」が熱演され、裏方ではザルに豆を入れて波の音の効果をだし、歌もおかしくてとても楽しかった。90才の大川さんの舞台度胸、弘津さんの三味線など役者が揃っていた。

入館当初は寂しくて子供や主人の名を呼んだりした、また人生において戦災に合ったり、不幸にも遭遇したが、現在は帰れと言われてもホームでの生活が一番よくて、帰る気持ちがないばかりか第二の故郷として親しんでいる。ホームの設備も非常によく、一流旅館への気を配った1泊旅行は楽しく生活環境は抜群です。

10年経つといろいろなことはあるが、入居者全員は仲がよく、お互いが助け合って余生を楽しむよう努力している。最年長者は92才の北条ツルエさんだが、これも施設長、奥様の経験による配慮から安心して生活されており、職員皆様の心のこもったサービスに感謝せずにはおれません。



## 来友館の歩み

### 46年

8月 西座正蔵氏（現理事長）は、自宅の庭1650平方メートルに  
軽費老人ホーム建設を計画。大阪府知事に設立申請する。

### 47年

7月12日 国庫補助の内示と社会福祉法人を受ける。

20日 西座家自宅においてホーム設立発起人会を開き、8月から整地  
を始める。

10月 9日 地鎮祭を行い建設に着手。

### 48年

3月24日 社会福祉法人「来友会」を設立。来友館は鉄筋4階建て、50  
名入居の設備として3月末完成。

5月28日 軽費老人ホーム「来友館」の竣工式と、開館記念式典を開く。  
最初の入居者は福岡肇山・千野ミネ・弘津テル・清水ユタカさ  
んの4名。

9月 1日 俳句クラブ、お茶クラブ結成される。

9月15日 第1回敬老の日演芸会開く。

12月29日 入居者、職員で餅つき大会。

### 49年

1月 1日 新年祝賀会

3月 3日 ひな祭り会



（開館記念式典であいさつする西座理事長  
（中央） 右上は現社協局長北野進氏  
右下は現市議員杉岡茂氏）



（「らいゆう」第1号発行）

- 5月 5日 端午節句会
- 9月15日 敬老祝賀演芸大会を開く、福岡肇山氏が来友館数え唄を作る。
- 25日 かくし芸大会を開く。
- 10月 機関紙「らいゆう」第1号発刊。
- 12月29日 入居者全員で餅つき大会。

## 50年

- 1月 1日 新年祝賀会
- 2月26日 羽衣のホテル新東洋でホームの昼食会を楽しむ。
- 4月11日 誕生会を開くようになる。
- 28日 園芸クラブが結成され、当麻寺にポタン観賞に行く。
- 5月 4日 地元春日町の長生会総会にホーム入居者が参加し親睦を図る。
- 18日 阿日寺（ポックリさん）で入居者肌じゅばんの祈禱を受ける。
- 30日 開館2周年記念式典を開き、ホーム役員、入居者家族、春日町長生会役員も参加する。
- 6月 1日 南御堂の老人福祉大会に踊りクラブが参加。
- 19日 庭園に白竜大神を祭り、犬鳴山の東条仁進管長により入魂式を行う。
- 7月15日 福祉施設の給食事業講習会に職員2名を派遣し、食事の充実を図る。
- 19日 犬鳴山温泉「阪六旅館」に入居者、職員全員参加で一泊旅行。
- 8月14 春日神社の盆踊り大会に揃いのゆかたで参加。



（お茶クラブ）

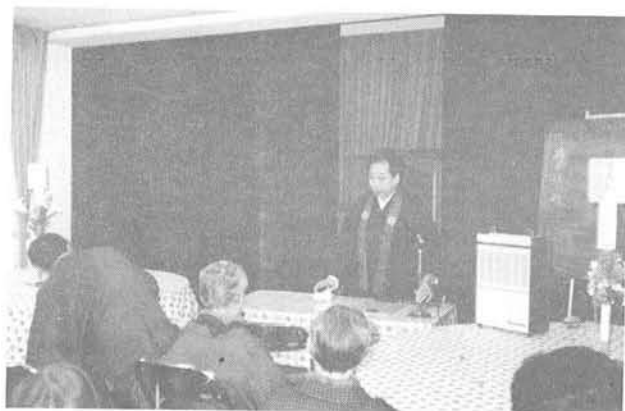


（俳句クラブ）

- 9月15日 入居者家族も招待して敬老祝賀芸能大会。
- 11月 8日 新和歌の浦にバス旅行を楽しむ。
- 12月29日 餅つき大会に続いて31日は、入居者も参加しておせち料理作り。

## 51年

- 1月 1日 新年祝賀会
- 3月25日 バスツアー旅行
- 4月14日 踊りクラブを結成
- 15日 園芸クラブが犬鳴山に植物採集
- 5月30日 開館3周年記念式典
- 6月 8日 足利先生の定期法話始まる。
- 6月22日 習字クラブが結成される。
- 7月 1日 南府民センターの老人食研修に調理人2名参加し、味付けなどの改善を図る。
- 7月15日 岸和田保健所での福祉事業給食業務説明会に職員参加。
- 9月 7日 芸能クラブが結成される。
- 15日 入居者家族22名も参加して敬老大会開く。機関紙「らいゆう」2号発行。
- 28日 17号台風の被災地である高知、兵庫県のホームに、入居者の手縫いじゅばん100枚と現金3万円を贈る。府立泉大津乳児園訪れ、手縫いの下着類を贈る。



(津村別院 足利先生の法話)



(園芸クラブの作品)

- 10月11日 春日町長生会主催の歩こう会に入居者10名が参加。福岡肇山氏が来友館いろは川柳を作る。
- 10月22日 歩こう会で和歌山城に入居者33名、職員6名が参加。
- 27日 第2回じゅばんの仕上げ作業を始める。会員7名で将棋クラブ結成。
- 11月6日 民間福祉協議会主催の秋季大運動会に職員参加。
- 10日 春日神社の清掃、定期的奉仕始める。
- 19日 和歌山の花山温泉日帰り旅行に入居者30名、職員5名参加。
- 22日 防火クラブ結成される
- 25日 全職員で消火器取扱い実習。
- 12月11日 市立福祉センターでホームの忘年会と誕生会を開く。
- 29日 入居者参加で餅つき大会、31日は正月おせち料理づくり。

## 52年

- 1月1日 新年祝賀会
- 2日 入居者有志によるカルタ取り大会
- 6日 お茶クラブ初釜
- 19日 市福祉センターで入居者の新年宴会
- 31日 民間施設会議に職員参加。
- 2月16日 手芸クラブを北野先生の指導で結成。
- 3月14日 社会福祉全国大会に理事長と職員1名出席。
- 15日 老人食と調理の講習に職員2名参加し、新しい技法を学ぶ。



(春日神社)



(春日神社の清掃奉仕)

- 3月18日 羽衣のホテル新東洋に一泊旅行、入居者41名、職員9名参加。  
 21日 全員でお彼岸まつり。
- 4月12日 泉佐野長生会総会に入居者代表7名が出席。  
 21日 歩こう会で岸和田城、蛸地蔵、寺田別邸に行く。参加者35名。
- 5月 5日 食堂に鯉のぼりを立てて端午の節句茶話会を開く。  
 10日 春日町長生会総会に入居者18名が出席し、踊りクラブが活躍する。  
 24日 園芸クラブの作品を警察、消防署、市役所に贈る。  
 29日 入居者家族を招待して開館4周年記念大会開く。
- 6月 1日 南御堂の福祉大会に踊りクラブが揃いの衣裳で全員参加。  
 7日 入居者の男子全員で防火クラブ編成。  
 14日 入居者と職員全員で防火、避難訓練。  
 16日 泉佐野保健所の職員2名来館し、食品衛生の説明会を聞く。
- 7月14日 入居者全員参加で淡輪荘に一泊旅行。  
 26日 入居者の保証人に暑中見舞いと現状報告を便りする。  
 28日 全員で避難訓練
- 8月15日 正午食堂において終戦記念の黙禱を捧げる。  
 21日 旧七夕祭の笹流しを行う。
- 9月 8日 内畑谷先生の指導で15名の民謡クラブ結成。  
 15日 入居者家族の参加で敬老日祝賀演芸会、3年以上の入居者に記念品贈る。



(結成された民謡クラブ)



(入居者家族を招待して敬老の日祝賀会)

- 9月17日 北海道有珠山爆発被災地に手縫いじゅばんを100枚、台風被害の大きかった沖縄県沖永良部島にじゅばん50枚贈る。
- 23日 彼岸法要会開く。
- 28日 近畿老人福祉施設研究協議会に理事長と職員3名出席。
- 10月10日 慰問用じゅばん縫製を始める。
- 19日 全国老人ホーム東京大会に理事長出席、囲碁クラブを結成し大会を開く。
- 29日 福祉施設従事者の秋季運動会に職員が参加。
- 11月9日 16名の奉仕でじゅばんの縫製238枚できる。
- 10日 園芸クラブが菊花展を観賞
- 12日 泉佐野長生会主催の作品展に編物、テーブルクロス、俳画、絵画などを出品。
- 17日 書道クラブが作品展を開く。
- 12月2日 大阪味の素クッキングセンターの「老人のためのおせち料理講習会」に職員2名出席。
- 31日 入居者とおせち料理づくり。

53年

- 1月1日 新年祝賀会
- 2日 かるた取り大会
- 7日 お茶クラブの初釜
- 8日 春日町長生会役員の新年会をホームで開く。



(歩こう会で久米田寺へ)



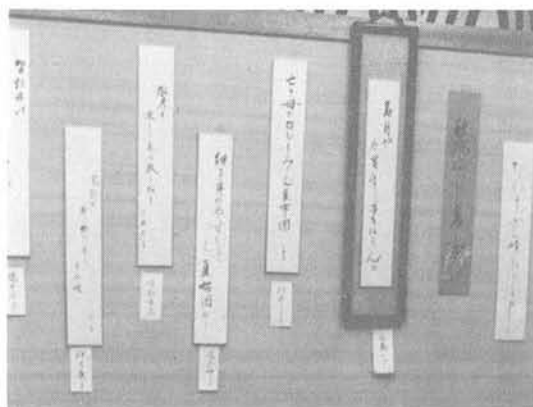
(京都馬主協会の補助で3階のらせん階段が完成)



- 1月11日 鏡餅びらきのおぜんざいで茶話会。
- 24日 春日神社社務所での長生会新年会に入居者も参加。
- 29日 有志によるカルタ取り大会。
- 2月17日 理事長宅で南大阪施設の調理講習会。
- 3月 1日 泉佐野保健所の集団給食講習会に調理員2名参加。
- 3日 職員も参加してひな祭会。
- 8日 45名参加でホテル新東洋に一泊旅行。
- 30日 馬主協会の補助で3階のらせん非常階段が設置される。
- 4月 9日 長生会主催の日根野大井関花見会に12名参加。
- 14日 入居者5名が17日までの4日間、縫製作業の奉仕をする。
- 24日 北九州市サニーホームから村上理事長はじめ4名が来館、ホーム全職員と処遇記録の実際、老人間におけるトラブル発生の諸問題の討議をする。
- 25日 俳句クラブ指導の総谷先生が老令のため指導困難になり、今後の会運営を協議する。
- 26日 日根野谷氏が来館され、長生会総会について理事長と協議する。
- 27日 池田市民会館での鶴亀の集いに14名が参加、踊りクラブの衣裳を新調する。
- 28日 従事者激励大会に職員2名参加、市民会館の泉佐野市長生会連合会大会に入居者4名が出席。
- 29日 天皇誕生日行事で全員が会食し、福岡肇山氏の門下生による尺



(衣裳を新調し中田サチさんの指導で職員も踊りのけいこを受ける。)



(俳句クラブの新指導者に阪上先生決る。  
(俳句クラブの作品))

八演奏と琴の合奏を聴く。

- 30日 俳句クラブの新指導者に阪上先生が決る。
- 5月 2日 中田サチさんの指導で職員一同も踊りのけいこを受ける。  
3日 入居者奉仕の縫製じゅばん67枚が出来る。  
5日 端午節句会と誕生会を特別料理で会食する。  
12日 俳句クラブが淡輪にハイキングに行き、13日に反省会を開く。  
19日 延命荘での指導員研修会に出席。  
21日 春日町長生会総会にホーム最年長者の加藤里うさんが招待される。  
28日 開館5周年記念祝賀会、演芸会を盛大に開く。
- 6月 15日 調理研修会、衛生管理講習会に職員の紀野、葛城さん出席。  
23日 食卓を円型テーブルに新調。  
30日 理事長が韓国ソウル市の私立清雲養老院を訪問。
- 7月 6日 入居者、職員52名の参加で新和歌の浦「岡徳楼」に夏季一泊旅行。  
8日 七夕祭りの笹流し。
- 8月 1日 来友館の歌「来れや友よ」を奈良吉太良氏が作詩。  
9月 1日 月報「らいゆう」第1号発行  
15日 入居者家族30名も参加して敬老の日祝賀演芸大会開く。
- 10月 3日 府社会福祉会館の養護老人ホーム作品展を見学。  
4日 機織りの講習を四條畷市のルーテルホームで、職員の田中重子さんが受け、入居者に機織り講習を始める。



(職員田中重子さんの指導で機織りを習う入居者)



(円型テーブルと椅子を新調)

- 10月13日 歩こう会に42名が参加し、堺市の妙国寺、南宗寺、大安寺、御陵前に至る。
- 17日 府主催の給食研究会に俵積田さん参加、大阪市主催の調理講習会に、沢田・葛城さん参加。
- 25日 南部軽費老人ホームの第二回調理研修会に職員2名参加。
- 29日 なにわ演芸慰問サークルの一行13名が来館、地域老人も招いて演芸を楽しむ。
- 11月 6日 松山市で開催された全国老人福祉研究大会に理事長出席。
- 10日 長生会連合会主催の岬公園観菊会に入居者22名が参加。
- 12月 7日 大阪市婦人会館の調理研究会に俵積田さん出席。
- 8日 独居老人に対する給食についての市社協会議に西座専務、俵積田さん出席。
- 25日 入居者全員に年末プレゼント。
- 30日 独居老人18名に対しおせち料理の配食を行う。
- 31日 ホームのおせち料理作成。

#### 54年

- 1月 1日 新年祝賀会
- 6日 お茶クラブの初釜
- 15日 ホーム新年宴会、郷土の歴史について講演とスライド映写。
- 1月30日 ホームで料理を作り毎週火曜日に独居老人への配食を始める。
- 2月 5日 木下サーカス見物に7名参加。



(独居老人への配食弁当づくり)



(なにわサークルの慰問)

- 2月 9日 泉佐野市福祉センターの給食事業会議に職員2名出席。
- 3月 3日 ひな祭り昼食会
- 6日 春季一泊旅行で高石市の羽衣荘に行く。入居者39名、職員9名参加。
- 8日 一泊旅行の反省会開く。
- 16日 寿老園での指導員研修会に高木さん出席。
- 4月25日 来友館において独居老人への配食会議、市社協議会とボランティア活動員35名出席。
- 5月 1日 めぐみ荘での南部軽費老人ホーム調理研修会に、理事長・俵積田・葛城さん出席。
- 9日 池田市民会館の鶴亀の集いに入居者15名参加。
- 16日 来友館に軽費12ホームが出席して指導員研修会議開く。
- 23日 めぐみ荘創立記念行事の作品展に手芸クラブが作品4点を出品。
- 27日 開館7周年記念の入居者家族大会を開く。
- 6月 5日 南御堂の法話と演芸大会に入居者13名参加。
- 15日 阪上先生による来友館開館記念の8ミリ映写会。
- 19日 泉佐野社協から独居老人へのホーム配食作業を撮影する。
- 30日 堺市民会館で歌舞伎見物。
- 7月 6日 新和歌の浦「岡徳楼」に夏季一泊旅行、入居者・職員50名参加。
- 8月14日 春日町児童公園の盆踊り大会に踊りクラブ13名参加。
- 9月 6日 第22回大阪老人クラブ大会に瀬川氏出席。
- 15日 入居者家族25名と共に敬老祝賀会。



桜橋サンケイホールの民謡大会に参加し努力賞を受ける。

- 9月25日 市敬老演芸大会に入居者3名参加。  
 26日 地域社会交流会議に西竹さん出席。  
 30日 桜橋サンケイホールの民謡大会に参加し、努力賞を受ける。
- 10月24日 わてらが作りました展を見学。  
 25日 歩こう会で牛滝山に25名行く。
- 11月7日 有志9名で京都一泊旅行。  
 10日 長生会の岬公園歩こう会に6名参加。  
 18日 市長生会連合会の演芸会と作品展に参加。  
 27日 長生会の串本旅行に入居者3名参加。
- 12月7日 老人ホーム職員研修会に沢田、田中さん出席。  
 30日 独居老人へおせち料理を配食。  
 31日 ホームのおせち料理作成。

## 55年

- 1月1日 新年祝賀会  
 15日 ホーム新年宴会  
 18日 独居老人給食事業合同連絡会議に出席。  
 26日 ヤマト唄と踊り、マジックショーの演芸を楽しむ。
- 2月4日 全国施設長研修会に理事長出席。  
 10日 なにわ演芸慰問サークル一行10名の訪問を受ける。
- 3月12日 榊原温泉に春季一泊旅行。  
 18日 民間従事者激励会に職員3名出席。
- 4月16日 鶴亀の集いに入居者14名参加。



(第8回開館記念日に出席した手芸クラブの作品)



(配膳の仕度をして敬老祝賀会に参加する職員)

- 5月 7日 来友館の歌「来れや友よ」の作曲者安則先生が来館され、唱歌の指導を受ける。
- 19日 歩こう会で緑と太陽の丘に21名参加。
- 25日 開館8周年記念演芸大会開く。
- 6月 3日 南御堂の追悼法要演芸大会に参加。
- 7月 8日 有田一泊旅行。
- 14日 近畿老人福祉大会に参加。
- 23日 春日町子供大鼓にかき氷を贈る。
- 8月11日 独居老人20名、ボランティア5名と共に親睦パーティー開く。
- 14日 盆踊大会に踊りクラブ参加。
- 9月 2日 泉佐野市敬老演芸大会に入居者4名参加。
- 9日 フェスティバルホールでの第23回大阪府老人クラブ大会に入居者の近藤さんが出席。
- 14日 入居者家族18名も参加して敬老祝賀会。
- 16日 習字クラブが泉州銀行で作品展。
- 10月29日 秋のレクリエーションで天野山、観心寺に行く。
- 30日 松下体育館での従事者大会に職員2名出席。
- 11月 6日 毎日ホールで山田五十鈴ショーを観劇。
- 7日 長生会の岬公園歩こう会に入居者10名参加。
- 11日 「岸壁の母」の映写会
- 12日 岡山での老人福祉施設研究大会に理事長出席。
- 12月20日 ホーム忘年会。



(岸和田城に歩こう会  
杉山 孝さん)



(馬場章夫氏が  
配食事業を取材)

- 泉佐野第三小学校 6 年生 37 名が慰問に来館。
- 56年 30日 独居老人におせち料理配食。
- 1月 1日 新年祝賀会
- 13日 ホームの新年宴会。
- 27日 兵庫県川西市から110名が、配食料理見学に来館を訪れる。
- 2月 1日 泉佐野市民会館で新春民謡発表会。
- 3日 熱海での全国施設長研修会に理事長出席。
- 13日 来友館で軽費老人ホーム分科会開く。
- 25日 毎日放送と馬場章夫氏が配食事業の料理づくり取材する。
- 3月 10日 老人と子供の作品展が大阪府福祉会館で開かれる。
- 18日 春季一泊旅行を白浜温泉古賀の井ホテルで楽しむ。
- 4月 7日 歩こう会で四天王寺に花見。
- 17日 池田市民文化会館の鶴亀の集いに入居者9名参加。
- 5月 11日 理髪奉仕と映画会
- 31日 第9回開館記念祝賀会、各クラブの作品も展示する。
- 6月 2日 南御堂の第20回福祉大会に踊りクラブ参加。
- 4日 和歌山県白浜の近畿老人福祉施設大会に理事長出席。
- 21日 西座理事長フランスの老人ホーム視察。
- 7月 9日 夏の1泊旅行で新黒崎に行く。
- 23日 春日神社祭礼、子供大鼓を接待。
- 8月 14日 春日町子供会盆踊大会。
- 9月 1日 泉佐野市敬老大会に参加。



(七夕祭の飾りつけ)



(京都馬主協会の補助で、4階に喫茶室が完成しました。)

- 9月 4日 第4回わてが作りました展見学。  
 13日 入居者家族とともに敬老の日楽しむ。ホーム4階に喫茶「らいゆう」が完成。
- 10月 18日 堺まつり見物に23名参加。  
 24日 大阪府民間従事者共済会主催体育祭に職員2名参加。  
 25日 サンケイホールの民謡リサイタルに民謡クラブ5名参加。
- 11月 5日 映画「おはなはん」上映。  
 14日 市民会館の長生会演芸大会、作品展に参加。
- 12月 12日 ホーム忘年会。  
 30日 独居老人におせち料理を配る。
- 57年
- 1月 1日 新年祝賀会  
 10日 なにわサークル演芸会クラブの慰問。  
 12日 新春福笑い大会。
- 2月 2日 岡山県津山市の研修会に理事長出席。
- 3月 1日 「来友会かるた」出来る。  
 4日 ホテル新東洋に春季一泊旅行。  
 17日 調理担当者研修会に職員出席。  
 18日 指導センターの栄養士、看護婦研修会に担当職員出席。
- 4月 16日 池田市民会館の鶴亀の集いに入居者12名参加。  
 25日 寿紅会民謡大会の招待に14名参加。  
 27日 長生会民謡大会に10名参加。  
 30日 歩こう会で淡輪公園につつじ見物。
- 5月 30日 第10回開館記念祝賀会、入居者作品展開く。
- 6月 1日 南御堂福祉大会に踊りクラブ参加。



(新春福笑い大会)



(90才の北条ツルエさんに向江市長が寿の座布団を贈る)



- 6月14日 ホーム利用料改定説明会開く。
- 7月 9日 新和歌の浦「岡徳楼」へ夏季一泊旅行。
  - 24日 春日神社祭礼、みこし番として接待する。
- 8月22日 春日町子供会主催の夜店に招待される。
  - 23日 向江昇市長が90才の入居者北条ツルエさん祝福に来館。寿の赤座布団を贈る。
- 9月 3日 市民会館の敬老大会に参加。
  - 10日 軽費老人ホーム分科会に理事長出席。
  - 12日 入居者家族の参加で敬老の日祝賀会。
- 10月 1日 自家製月見団子を作り十五夜を楽しむ。
  - 5日 歩こう会で大阪空港と老人総合センターに行く。
  - 31日 市民民謡クラブの発表会に参加。
- 11月 3日 入居者主催の小運動会をホーム裏庭で開く。
  - 14日 市民会館の長生会作品展覧会に入居者作品を展示。
  - 18日 全国老人施設大会に理事長出席。
  - 25日 難波別院中本先生の法話。
  - 30日 泉佐野市社協の配食事業会議に中垣職員出席。
- 12月 6日 看護婦研修会に職員出席。
  - 11日 ホーム忘年会で紅白歌合戦を行う。
  - 15日 栄養士研修会に職員出席。
  - 25日 お正月用プレゼント配る。
  - 31日 おせち料理を作り独居老人に配食する。



(ホーム裏庭での小運動会)



(忘年会の紅白歌合戦応援団)

## 58年

- 1月 1日 新年祝賀会  
4日 北御堂の足利先生法話。  
11日 ホーム新年会、福笑いゲーム楽しむ。  
23日 ゲートボール大会開く。  
25日 独居老人への毎週火曜日配食再開。  
29日 お茶クラブ初釜。
- 2月 1日 老人医療改正、老人健康手帳となる。  
17日 指導センターの栄養士研修、25日の指導員研修に職員出席。
- 3月 3日 有馬温泉兵衛向陽閣に1泊旅行。  
10日 泉佐野集団給食会議。  
25日 大阪府庁老人福祉課から監査のため来館。
- 4月 11日 歩こう会で和歌山県根来寺・粉河寺に25名参加し桜を楽しむ。  
12日 南御堂松井先生の法話。  
14日 中座の松竹新喜劇入場券25枚を受け入居者15名が観劇、10枚は配食先の独居老人に配り喜ばれる。  
23日 市民会館ホールの長生会大会に参加。
- 5月 16日 泉佐野保健所で入居者の健康診断。  
26日 会館記念日プレゼント配布。  
28日 開館10周年記念式典、祝賀演芸大会開く。各クラブも作品を展示。



(機関紙「らいゆう」)



(庭園にある白竜大神)



俳句クラブ

阪上 蝸牛子先生

10年ひと昔と申しますが、館長ご夫妻のかもす「和」と、職員皆様のご苦勞も感じられるなか、入館の皆様はクラブ活動にひたすら励むことが出来るのではないかと思います。俳句クラブのお世話に参りますようになって約7年、夢のような年月ですが私にとって忘れることの出来ない思い出の数々があります。

入館されている皆様から多くのものを学ぶことも出来ましたし、人間は必ず老いるということは知っていても、日常生活に安らぎの心を保ち続けることの出来るのは、館長様はじめ職員の情熱であると思います。いろいろと問題はあると思いますが、最善のご精進を続けられて健康でありますよう祈ります。

うらかな 日射が窓に開館日

<クラブ員> 莊司 永、今村君子、神吉英子、羽原ミサヲ、近藤妙子、中村まさ、小島ハツ

<職員> 田中重子

クラブ員の俳句

近藤 妙子

細る身の やすらぎつつむ夏布団  
菊若葉 匂ひたつ手の花鉄み

莊司 永

菜の花や 暴れかかりたる塔淡し  
土蔵古りて 昔のままに芽あじさい

羽原 ミサヲ

遠山に 染める吉野の花ぐもり  
溪谷の 鈴人光る秋日和

神吉 英子

日溜りに 忘れ乳房にねる子猫  
野遊びの 笑ひ上戸や若葉風

中村 まさ

もつれ飛ぶ 蝶々の昼ひくく舞ふ  
水温み 友禅流す桂川

小島 ハツ

まるやかに 育つ孫らよ鯉のぼり  
嫁心 老にはかろし夏布団

今村 君子

御手洗や 石段みずく花の雨  
草若葉 葵の香り風にあり

## 踊りクラブ



上之郷谷 琴代先生

ここは泉州 泉佐野 浜筋通れば磯の香の  
出船入船 威勢よく 一手千両の市が立つ  
音に聞こえし来友館 広く気高くそびえたつ

幾年過ぎし早や十年 訪ずる友は打ちとけて  
心なごやか生き甲斐に 習う舞踊の楽しさは  
心のささえ気のささえ 笑う笑顔に福が舞う

教える私も根気よく 手どり足どり一すじに  
これも一重に来友館 館長はじめ皆様の  
厚き心よ慈悲のもと 月・雪・花と日を送る

登る朝日ともろともに 千代に八千代に幾久しゆう  
泉佐野の栄冠と ともに語らん来友館

<クラブ員> 石井盛人、矢倉音吉、中井新一、柏迫サチエ、北条ツルエ、永田ムネ、岡本アケヨ、三好綾子、飯久保米

<職員> 葛城時子、西座富子、俵積田トシ子、中島明美

## 民謡クラブ



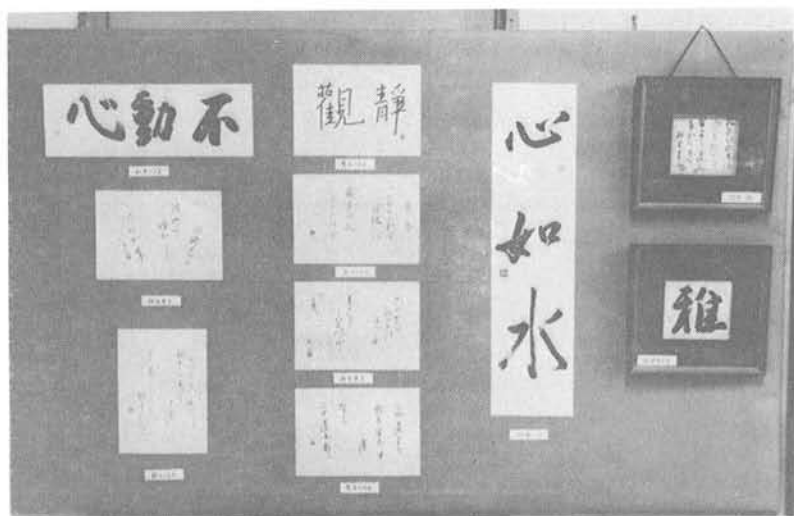
### 内畑谷 勇雄先生

民謡クラブの教師としてお招ねきを頂き、早や6年を迎えようとしています。未熟者の私が、今日まで努められましたのも、館長はじめ皆様の暖かい励ましの賜ものと、心から感謝しています。いまではクラブ員も増え、より一層の努力をしなければと決意しています。

さて、私は当初から民謡クラブについて「上手に唄ってもらおう」という気持ちではありませんでした。おじいさん、おばあさんが明るく楽しく唄えるクラブになればと念願していました。いまでは皆さんが元気に、楽しく唄っているお顔を拝見するのが最大の喜びになりました。これからも、より一生懸命に頑張ってお皆様と共に楽しい民謡クラブにしたいと思います。

<クラブ員> 荘司 永、今村君子、神吉英子、羽原ミサヲ、近藤妙子、  
中村まさ

<職員> 田中重子



#### クラブ員一員

日頃お勤めを持つかたわら習字を指導して下さる先生、毎年の開館式、そして敬老の日には必ず式典の文字とプログラムを作成して頂いています。お病気と聞いてお見舞いにかがいましたが、そのとき始めてこんな遠方から指導に来て頂いていることの認識を深めました。

お疲れにもかかわらず、いつもにこやかにどこか坊っちゃんの風格をにおわせ、ユニークな笑いで肩をこらずに勉強させて頂いています。手にそれぞれのくせのある文字、それをほくして下さる先生が早く快方に向うようお祈りしています。

- <クラブ員> 荘司 永、今村君子、小島ハツ、中井新一、吉田シズノ、羽原  
ミサヲ、北条ツルエ、近藤妙子、中村まさ  
<職員> 中島明美、沢田範子、田中重子

## 茶道クラブ



<クラブ員> 西座正蔵、西座フデ、三好綾子

## 園芸クラブ



<クラブ員> 東浦文太郎、中井新一、永田ムネ、柏迫サチエ、向井重吉

## カラオケクラブ



＜クラブ員＞ 坂本アイ、石井盛人、柏迫サチエ、荘司 永、今村君子、藤原  
エイ、岡本アケヨ、小西ミヨエ、藤井フサコ、小島ハツ、 広田朝隆、南野  
ヤナ、矢倉音吉、谷本辻雄、神吉英子、口野 栄、三好綾子、飯久保米、山  
中福恵、山入静一、田中八重、藤野米蔵、大家やす子、太田タカエ、東浦文  
太郎、中井新一、北条ツルエ、杉谷ちえの、鎌田ヤエノ、吉田シズノ、羽原  
ミサヲ、新銀竜太郎、黒河要子、横井初江（職員） 西座富子、田中重子、  
葛城時子、池浦憲子、中垣多恵子



## 外国の老人ホームを視察して

理事長 西 座 正 蔵

### 〔フランス〕

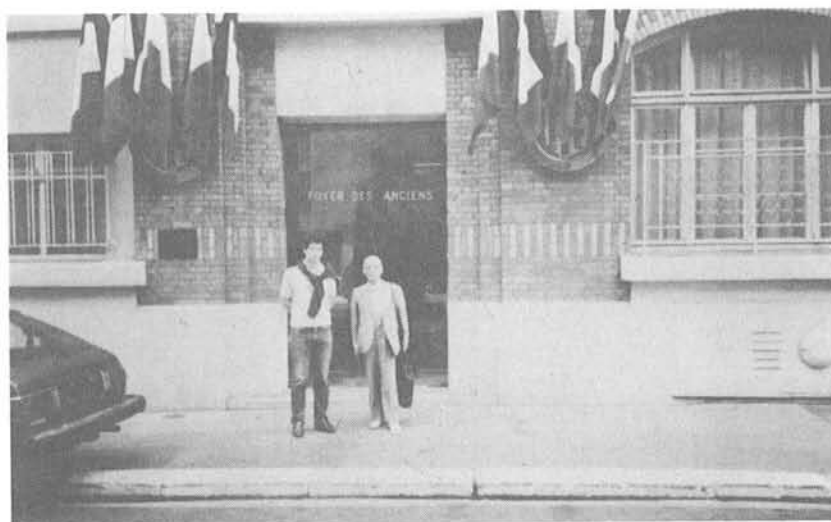
昭和56年6月12日、ブルガリア国主催の世界狩猟博覧会に、日本猟友会の視察団に参加して出発しました。帰国の際にスウェーデン・デンマークの老人ホームを見学する目的もありましたが、途中アラブ首長国連邦で飛行機の故障が起り、日程が大きく変更して訪問できなくなりました。その替りフランス・パリの、日本的に言えば市町村立の老人センターを視察しました。ガイドと2人でタクシーに乗り、約30分で老人センターのある町に着きましたが、なかなか目的のホームが見つからず苦労しましたが、通行の婦人に尋ねてやっと場所がわかりました。フランスでは国、市、区、町の建物には、すべて国旗が掲げられていますが、わが国では終戦後、国旗に対する意識がうすれ、掲揚することが少くなりましたが、これは国民が国に対する有難さを忘れていないでしょうか。

到着したのはパリ20区の区立老人センターでした。入口で65才ぐらいの老女が受付番をしていましたが、後で聞きますと当番制で受付番をしていると言うことでした。通訳している中でフランス語としてわかった言葉は、ジャポネということだけでした。園長は体重90～100キロという婦人で、訪問の目的を話しましたが、フランスでは紹介状がないと絶対に許可されないため、区役所で許可を受けることにしました。私は日本から持参した緑茶、色紙、筆、香水、鉛筆、便箋などのプレゼントを園長に渡し、許可をもらって来るよう話していると、40才ぐらいの真赤な服装、真赤な口紅をした婦人が入って来ました。

その婦人が区の福祉の人でしたので、日本の緑茶をプレゼントしたところ、「おお、グリーンティ、私は良く知っている。飲んだことがある」と言って喜び、自由に見学することを許可してくれました。すぐ園長の息子さんと呼んで、案内するよう指示してくれました。このセンターには宿泊施設はありませんが、約700人の老人が利用しており、1カ月の利用料は日本円で約5000円で、食事その他は全部自費ということです。食事は朝注文すれば給食会社のようなところから届けられます。老人達は広いサロンの円形テーブルに6～7名が集っていました。男子は玉突き場、女子は手芸室、立派な図書館などで楽しみ、

驚いたことには立派な美容室まであり、これらのクラブには、それぞれのボランティアが居て、毎週定められた日に出張してサービスしているそうです。

ボランティアの組織は実に上手に組入れられ、日本では考えられないことでした。食堂も円形テーブルで、6～7人の席で10テーブルあり、その配列は中央に広い部分を残して円形になっており、中央の広い場所ではダンスが楽しめます。配膳室は1人分ずつ入る棚があり、食事は熱処理で温く出来るよう設計されています。約2時間の見学で感じたことは、どの老人も皆んな元気で、自分で楽しみをつくって没頭していると言うことです。息子さんの話によると、ボランティアの体制が整っていて老人の面倒をみてくれるということでした。日本のように何でも金銭問題がからんで来るのではなく、奉仕についても心構えの違いを強く感じました。園長にお礼を言って、息子さんに筆と便箋、色紙を渡し、玄関で記念写真を撮って帰途につきました。



(国旗を掲揚するフランス・パリの老人センター右が西座理事長)

### 〔 韓 国 〕

53年6月30日の午前9時、ソウル市庁の李係長と庁舎の車で鐘路区旧基洞にある私立清雲養老院に向いました。市庁から20分で郊外に出ますが、深山緑葉につつまれ、静かで少し寂しいところに清雲養老院があります。1920年から親子三代にわたって経営されている李圭三院長に面会し、内容について詳しく説明してもらいました。入口に事務所がありますが、日本で言えばプレハブの事務所のようなもので、決して立派なものとは言えません。冬季には摂

氏マイナス30度にも下るといふ話に、びっくりするとともに大変だなあと感じました。

老人福祉施設に対しては、これと言った公的な補助の少ない中で、3代にわたって施設を次々と拡張された院長の努力には敬服しました。施設1棟の広さは奥行き2間半、幅8間ぐらいで約20坪、入った所に靴が並べられる土間があり、一方が窓で二方が壁になっている。そこに各人の荷物が置かれ、約20名が生活していますが、こうした棟が7棟あります。食堂は板に釘付けのテーブルと、4人掛けの長椅子があるだけです。別に約8坪の棟がありましたが、ここには病気で自由がきかなくなった人が入居していました。訪問したときには5名の人が入っているようでしたが、その中に入ることは許可されませんでした。その横にコンクリート造りの十字架と台がありましたが、これは院で死亡された人をその台の上に乗せて霊を弔い、行政の人に引き渡して終りのようです。

私は入居者が病気や死後に関して、精神的に大きな不安を抱えているのではないかと思い、「遺骨堂のようなものを設置し、霊に対して友達が礼拝するようには」と話しました。しかし、院では新しく2棟を建設中で経費面での苦勞が大きく、そうした設備の余裕が無いということでした。清雲養老院は、日本の養護老人ホームの設備を悪くしたような所ですが、私はこの養老院を訪問した最初の日本人ということでした。



韓国・ソウル市の韓国・ソウル市の私立清雲養老院

## 明治生れ

大阪市 細川 昌雄

「衣食足って礼節を知る」とは、言い古された言葉です。なれば今のように満ち足りた世の中で波のたつはずは無いのに、三面記事が絶え間なく続きます。カッとなれば他人はおろか肉親ですら見さかいなく殺します。さては若気の至りかと思っていますと、先日は東村山市の老人ホームで、71才の男による殺人事件が発生して啞然としました。野獣は感情の赴くまま、自由に行動することを許されていますが、人間集合体ではそうわまいません。誰しも喜怒哀楽の感情に变りのあるはずはありませんし、ことに複雑多岐な仕組みの人間社会では慾求も旺盛です。したがって譲り合いと忍耐が必要になります。

「人生は終始欲求との闘いだ」と言う人がありますが、私も賛成です。明治生れは貧困の中に育ち、家族揃って寸暇なく働きました。義務教育を受けることすら叶わず奉公に出る者もあり、辛うじて就学したとしても、放課となれば自宅に駆け戻り、学業カバンを放り出して、引き替えに赤子を背負って子守りのままの使い走り、すすぎ洗濯、めし炊き、掃除と追いまくられ、夕食後の片づけを済ますと前後不覚の有様でした。こうして小学5年ごろともなれば、暮しの万端は自然と身につけてしまい、身内や他人から大人並みの扱いを受けるのが通例でした。

これは担任教師の寛厳よろしくの指導があったればこそで、その頃の小学訓導には博学多才な人が多く、学童達の暮しをよく呑み込んだうえて、細かい教育を施してくれました。PTAも無いのに、わが家と学校の共同教育の鮮やかさは正に神わざでした。いま振り返ると感涙滂沱です。この善き人達に囲まれて暮しの基礎を知ったわが男達は、徴兵によって否応なく軍隊に放り込まれ、そこで更に忍耐の念押し修業を体験しました。

娑婆は明治から大正に移っても不況は続き、昭和2年4月にはモラトリアムと言う奇妙な法令が、堂々と公布される深刻さで、どの職業も青息、吐息でした。さりとて、この後にまさか日本敗北との事態が起ろうとは誰も気が付きません。この世から一切の善を消し去った戦争地獄については、一筆も書く気持ちはありません。

## 機関紙「らいゆう」から

### 設立の思い出

専務理事 西 座 フ デ

早いもので軽費老人ホーム「来友館」が完成し、皆さんのお世話をするようになってから3年以上を経過しました。居間の窓を開けると、老松と四方竹を取り入れて作られた中庭のすぐそこに、鉄筋4階の建物が目にうつります。それぞれの窓には50人余りの語りの声が聞こえて来ますし、夕方には明るい生活の灯がともります。しかし4年前には、このような仕事をするということは、思いもよらないことでした。

昭和46年の春、桜の便りも聞かれるという頃、ふと主人は「老人ホームを建てよう」と言い出しました。西座家は当主で11代目、泉佐野市春日町（旧車町）に居を構えてから三百数十年になります。敷地には広い庭園と隣接する貸家があり、これを何か社会に役立つことに活用してはどうかと考えていたようでした。それがどういうものになるかは、具体的には決めていませんでした。

戦後、人口や老人の増加、また家族構成の核家族化が進み、息子や息女と離れて生活するようになりました。老人ホームに入居されても、それが縁に囲まれ、風景に恵まれた所であっても、駅から遠い場所で日用品一つ求めるにも不自由をするという現状であります。幸い当地は駅に近くて商店街もあり、周囲には神社や寺院もあって医療設備も整い、海にも近く活きた魚も食膳に供することが出来ます。こうした閑静な所に老人ホームがあってもよいのではないかと、軽費老人ホーム建設を決心したのですが、その頃、私宅には思いがけないことが重なり、私も健康を害して悩んでいました。暑い夏も過ぎて秋も去り、早や師走も中ばの頃、私は発作を起して入院しなければなりませんでした。精密検査を受けて治療しましたが、2カ月しても原因がハッキリせず自宅で療養することになりました。

主人は、いよいよ社会福祉法人軽費老人ホーム設立にとりかかり、帝塚山の受念館岸上先生や、四条畷の「るうてるホーム」泉先生、南大阪老人ホームの川島先生に御指導をお願い致しました。社会福祉法人の許可は非常にむづかしく、厩犬な書類を作成しなければなりません。幾度か厚生省にも足を運んで47年7月12日に社会福祉法人の内示があり、同7月20日に自宅広間で老人ホ

ーム設立発起人会を開きました。

食堂、調理場、風呂場、別棟の茶室、米倉庫、トイレ、車庫や隣接する貸家を取りこわして建設することになり、8月末から建物の解体が始められましたが、そのホコリと狭い道路による運搬のため、また暑い時候のときで近所の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。運びきれない木材を広場で焼いたときには、炎と煙が高く昇り消防署から駆けつけられて注意されるなど、今は遠い日の出来事のように思われます。

造成工事も出来たところ設立の申請書ができ、9月1日に提出して10月9日午前9時から第2回目の発起人、理事、監事候補の方と合同会議を開きました。10時に神式による地鎮祭を行い、春日神社の田島宮司を始め発起人の皆様、市長、消防署長、町内の皆様にも参列して頂きました。建設は三洋建設と広和建設の共同体で進められましたが、狭い道路で資材運搬が思うにまかせず、クイ打ちが困難なこともあって工事が1カ月ほど中止されたこともありました。

こうした建設中にオイルショックが起り、資材の暴騰する中で業者の人が材料確保に奔走されたり、3階、4階のコンクリート流しのときは酷寒で、夜中に火をたいてコンクリートが凍らないよう、現場監督をはじめ皆さんが努力されたことなど、忘れられない思い出です。48年3月24日付けで社会福祉法人「来友会」の設立許可が、府庁から通知のあった時は関係者一同胸をなでおろしました。

建設工事は予定より少し遅れましたが、5月28日竣工式を行う運びとなりました。当日は大阪府老人福祉課長、泉佐野市長、民生部長、同課長、府会議員、市会議員の方々の列席を賜わり、ホーム関係者、地元春日町、本町の皆様も出席下さいました。地元の皆様にはホームを見学して頂き、在宅のお年寄りとも交流を図って下さるようお願いしました。開館当時は壁に突き当たりながらも、皆様の協力を得て3年余りが過ぎましたが、今日ではホームの皆様とも楽しく過しています。これからも微力ながら施設設備の充実、職員の意識向上などに努めて、健康で楽しい毎日を有意義に過して下さるようになりたいと思います。(らいゆう2号 50年9月発行)

機関紙「らいゆう」から

## 災害地に肌じゅばん、金一封贈る

各地からのお礼状

軽費老人ホーム筆山寮 小 路 忠 幸

先日は思いも掛けない沢山のお見舞品を御恵送下さしまして、誠に有難く心から御厚礼申し上げます。昨年の台風5号の追い打ちのように襲った17号は、かつてない1300ミリの豪雨であり、高台にある当施設が雨の被害を受けたことは無かったのに、当寮の登り口の道路に大亀裂が生じ、その調査だけでも数カ月かかるという山崩れであり、もはや2カ月を迎える現在も全面通行止めです。日々の食糧運搬、急患の処置、そして徒歩でのボランティアの奉仕を願うなど、文字通り苦難の連続ですが、幸い入居者一同大変協力的で、ややもすれば沈みがちな気分を、お互いが励まし合う姿に力を与えられ、この試練に立ち向っています。

この度の心温まるお見舞いに、大勢の入居老人の生命を託されている私達にとりまして、どれほど力づけられたことでしょうか。お心にかけてくれた御厚情は身にしみて嬉しく、ご懇情を謝すとともに、これを機縁にご教示に背かないよう努力する所存です。

(らいゆう第2号 52年5月発行)

同 兵 頭 秋 恵

先の頃は私達のために心のこもった贈り物を頂き、館長さんの思召して皆様が私達のために、正座なさって縫って頂いている様を思い浮かべて、涙の出るくらい有難く頂戴いたしました。南国土佐といわれるとおわり暖かく、よい国だと思っていますけれど、年に1~2回必ずといってよいくらい台風に見舞われます。私は入寮して1年3カ月になりますが、高知市を一望できる高台で空気はよく、庭は花が絶えることなく咲き競っていて、寮長、寮母さんも親切で食事もとても美味しく、館長さんも是非一度お出で頂きたいと存じます。

今度の台風は、筆山老人ホームへの登り道はズタズタになり、自動車も通れないありさまです。私達の頼んだ品をリュックに入れ歩いて通勤される寮長さん、寮母さん達の身体が気になります。お礼の手紙が暗い文になって申しわけありませんが、私達は毎日を明るく楽しく過しており、民謡クラブに入って下手な踊りもしますし、朗詠クラブでは誕生会の舞台に出て大活躍しています。私共の世代は戦争時代があって、同じ苦労を重ねたと思いますが、老後は明る

くありたいと思い、生れつきの引込み思案を返上しました。

来友館の皆様はいかがお過しでしょうか、きっと優しい館長さんのもとで元気に、明るく暮されていると存じます。私の居る「すみれ棟」は12部屋あり、どの部屋の人達からも厚くお礼申上げて頂くよう、私が代表で頼まれたのですが、つたない筆で意がつくせませんが、皆様によろしくお伝え下さい。

同ホームの高岸トキ子さん、坂本藤枝さんからもお礼状を頂きました。(同)

## 社会福祉法人 夢前和楽園

園長 後藤幸雄

去る9日付けをもって貴館在所者の皆様方から、水害救援物資として手厚いご寄贈品を賜わり誠に有難う存じます。在園者一同ご芳情に対し心から感謝いたしております。今次水害は播州地方と致しましては未曾有の出来ごとでしたが、幸い本園の被害程度は軽微でしたので他事ながらご放念下さい。その後、皆様方をはじめ全国各地からの暖かいご支援により、災害復旧も日増しに急ピッチで進み、日を追って明るい播州の表情をとり戻しつつあります。(らいゆう続2号 52年5月発行)

## 社会福祉法人 栗栖の荘

小林良一

この度は御見舞品、御見舞金を頂きましたが、開けてびっくり致しました。貴館の入居者の心温まる思いやりの手縫いの肌じゅばん50点、言葉では尽せない至上の光栄を受けましたこと、私共の入居者とともに厚くお礼申し上げます。9月9日～12日の4日間で600ミリ以上で瞬間豪雨で、当荘の背後山地60ヘクタールから集積水が急激に増水し、わずか3分程度で背後の敷地は池となり、谷川の水が逆流して床下浸水しました。

入居者の恐怖がつのるのを考慮して、集会所にいち早く緊急避難して昼夜共に暮しました。一時はどうなることか、これ以上増水し床上浸水ともなれば地域との連絡、避難も困難になるのを憂慮し、雷神様を祈り続けました。ようやく11日に峠を越して減水しはじめましたので、やっと安堵した次第です。入居者、職員の皆様には有難うございましたと、ご鳳声下さいますようお願い致します。(らいゆう続2号 52年5月発行)



## 特別養護老人ホーム長日園

岸 安 正

8月7日の有珠山爆発に際しましては、ご心情のこもった皆様お手縫いの肌じゅばんを、多数ご恵与頂き誠に有難うございます。長日園は有珠山の山麓に建てられたものですが、噴火による被害は直接降灰を被むっただけで、幸い一人のけが人もなく無事避難することが出来ました。大半の人は家族の元に引きとられました。寝たきりの重症者や家庭の事情で思うように看護の出来ない人は、他の施設に仮委託で収容して頂き、地震のおさまるのを待っています。

頂きました肌じゅばんは、早速施設にいる人や、家庭に帰っている人に手渡しました。日本の北の果て北海道に、遠い大阪の皆様から寄せられた厚い御芳情に一同深く感謝しています。お礼状を早く出すよう言いましたが書けない人もあり、寮母の代筆などで少し遅れると思えますがご了承下さい。(らいゆう続2号 52年5月発行)

## 北海道有珠郡壮瞥町

町長 館 崎 盛 男

このたびの有珠山の噴火に際しましては、早速心からなるお見舞いと援助の手を差しのべられ、有難く感謝申し上げます。8月7日午前9時12分に突如として起った噴火は、火口からとどまることなく押し出される噴煙、まさに手のほどこしようもなく、自然の営みの偉大さを見せつけられ、活火山の下にある宿命を感じた次第です。大小18回を数えた噴火も14日以来噴煙は止っていますが、依然として地震が続く緊張状態の中にあります。一部火口に近い昭和祈山地区、壮瞥温泉地区が避難命令下にありますが、噴火活動の早期終息を念じながら町民一丸となって降灰の除去、整理に努めています。(らいゆう5号 53年1月発行)

沖永良部島和泊町 喜 村 か ね

このたびの台風9号のため私達の住む沖永良部島は、全島にわたって大きな被害を受けました。被災地の老人クラブ員の私に來友館の前田カツ様ご厚志の手作り肌着を1枚頂きましたこと、厚くお礼申しあげます。当地はいまだに元通りの復旧工事がはかどらず、プレハブ住宅に住み移ることも出来ず。台風後は老人クラブ会も開かれていません。現在は雨もりのする避難所で気苦しい毎

日を過していますが、早く安心できる住いの完成する日を楽しみに待っています。(らいゆう5号 53年1月発行)

## 子供の頃の思い出

入居者 前 田 カ ツ

子供の頃大阪南区の八幡筋に住んでいました。古い話ですが、夏ともなれば庭に打ち水をして螢などを追いかけて遊んだものです。夕方になると浴衣に着替えて友人の「おんごく遊び」をしたものです。女ばかり集って長い網をもち、紅提灯に火を灯して、わらべ唄を歌って町内をねり歩きました。

おんごくなはは なははやおんごく  
舟が出て行きや 帆かけて走る  
一においてまわろ こちゃ市たてぬ  
市屋なりゃこそ 市たてまする  
二においてまわろ こちゃ庭掃かぬ  
丁稚ならこそ 庭掃きまする  
三においてまわろ こちゃ三味ひかぬ  
芸者ならこそ 三味ひきまする  
四においてまわろ こちゃしわ寄せらぬ  
年寄りならこそ しわ寄せまする  
五においてまわろ こちゃ碁は打たぬ  
旦那ならこそ 碁を打ちまする

10番までありましたが忘れてしまいました。(らいゆう第4号 52年9月発行)

## 日本人の平均寿命さらに延びる

昭和57年の調査によると、日本人の平均寿命は男74.22才、女79.66才で、さらに長寿記録を更新した。これは人口20万人のアイスランド(女79.7才)を除けば、世界一の長寿国ということであり、三大死因であるガン・脳卒中・心臓病が克服されるに当たって、寿命の延びることが予想され、世界各国からも注目されそうである。

## 来友館 数え唄

入居者 福 岡 肇 山

- 一つとせ 人は慎しみ第一じゃ 第一じゃ  
一人の我まま迷惑じゃ 迷惑じゃ
- 二つとせ 二つとないのが我が命 我が命  
毎日身体に気をつけて 気をつけて
- 三つとせ 皆と仲よく暮しましょ 暮しましょ  
わが身のためにも皆のため 皆のため
- 四つとせ 世の中インフレ四苦八苦 四苦八苦  
私はホームで気が楽じゃ 気が楽じゃ
- 五つとせ 今の暮しは極楽じゃ 極楽じゃ  
感謝の生活有難や 有難や
- 六つとせ 昔は嫁女に気がねした 気がねした  
今では一人でのんびりと のんびりと
- 七つとせ なかなか住めないマイホーム マイホーム  
私はキレイな部屋住い 部屋住い
- 八つとせ 優しい寮母や職員さん 職員さん  
毎日息子や嫁のよう 嫁のよう
- 九つとせ これから何年生きるやら 生きるやら  
いつまで生きても極楽じゃ 極楽じゃ
- 十とせ とかくこの世はぐちばかり ぐちばかり  
感謝で暮そう来友館 来友館

(らいゆう第1号 49年10月発行)

## 来友館 いろは川柳

入居者 福 岡 肇 山

- ① 一番に先ず仏前にごあいさつ ② 60や70でもまだ気は若い ③ 針仕事 食事のチャイムできりがつき ④ 人間はみんなの支えで生きるもの ⑤ ほめられて 冷汗をかく俳句会 ⑥ へたくそな 句でもたまには選に入り ⑦ ドッコイショ と

言わねば立てぬ歳ばかり (ち) ちっほけな ゴミでも捨う心がけ  
 (り) 理屈では かなわぬけれど真心で (ぬ) ぬくぬくと こたつに  
 眠る住心地 (る) 留守中も 安心できる部屋の鍵 (を) 老の友  
 みんな仲よい茶飲み友 (わ) 笑い声 絶えぬ楽しいバスツアー  
 (か) 開館の 記念日皆の赤い顔 (よ) 世の中は 言うて良いこと悪いこと  
 (た) 台風や 地震が来てもまず安心 (れ) 冷暖房の 心  
 づくしは有難し (そ) その言葉 一言多い気をつけて (つ) つい  
 口を すべらしたのが禍いし (ね) 寝たばこは 一番多い火事のも  
 と (な) 何事も 礼儀正しいお人柄 (ら) 来友館 設備の良さに  
 一目ぼれ (む) 昔から とった杵づかものを言い (う) 美しい  
 花一杯の園芸部 (ゐ) いつまでも 若々しいのは気楽ゆえ  
 (の) のんびりと 余生楽しむ果報者 (お) お茶クラブ お点前見事  
 しとやかに (く) 苦も楽も 皆で分け合う一家族 (や) やれやれ  
 と 今日一日も無事な顔 (ま) 毎朝の 体操わが身のためと元気出  
 し (け) 敬老の日 まず愛される老人に (ふ) ふき掃除 手まめ  
 にどこもピカピカと (こ) この上に 何が不足か欲張りな  
 (え) 縁あって 一つ館に睦み合い (て) 寺まいり 隣り近所も誘い  
 合い (あ) 甘えるな もっと不幸な人もいる (さ) 酒が出て 唄  
 う老婆の顔の艶 (き) 今日も無事 明日も元気で会いましょう  
 (ゆ) 浴衣着て 踊りクラブのしなのよさ (め) 恵まれた 今を喜び  
 手を合わす (み) みな一緒 手を握り合い末ながく (し) 趣味を  
 もつ 人に恍惚の人はなし (ゑ) 縁あって 同じ釜のご飯食べ  
 (ひ) 人の和は お早ようさんの言葉から (も) もりもりと 食べて  
 もくもく動く人 (せ) 世話したり 世話になったりお互いに  
 (す) 据膳の 三度三度に感謝して (京) 今日もまた 笑顔が揃う来  
 友館

(らいゆう続第2号 52年5月発行)

## むかしばなし

入居者 莊 司 永

その昔、佐野の海添いに食野家という御用商人がいて、紀州候とは格別の間柄だったといわれ、諸大名への貸付証文が長持ちに一杯のまま明治維新を迎え、返済されずそのままになったといわれる。その食野家の台所の一部が私達の通った小学校になっていたが、当時は集会場（今の講堂）の中程に大きな大黒柱がそのまま、入口の上部には立派な彫刻があったのを覚えています。しかし、少女時代のことで、それ以上のものは見つけ得なかったけれど、もっと興味深いものが相当残っていたに違いないと思います。

食野家の全盛の頃には、いろは48蔵の倉庫が建てられたといい、私が娘の頃には、そうした蔵がいくつか残っていました。私の家の近くに残っていた数棟は、祖父が家業の肥料倉庫に利用していたが、中には車のタイヤのような形で、カチカチに固められた豆粕などが、仲仕や番頭さん達によって船から運ばれていました。現在は防波堤がめぐらせてありますが、当時の海岸は足元までサラサラと波が戯れ、春の節句頃には潮干狩りを楽しみ、あさり貝とわけぎの酢物にして食べました。いそぎんちゃくにいたずらして顔に海水を吹きつけられたり、手に乗せると丸い玉になるマメンコを集めては、砂の上で競争させるのですが、手の平でトントンと砂をたたいて懸命でした。

食野家の建てた倉の側には、高灯籠のようなものがあって、夕方になると漁師がカンテラを吊りに上り、遠めがねという尺八のようなものを持って、その小高い所から長くしたり、短かくしたりして帰りの船を迎えたものです。船を引きあげるのは「じゅんぐるま」と呼ぶもので、枠に組んだ台の上に大きな円筒型の木を立て、それに網を巻きつけて数人が持ち、棒を持ってぐるぐるとヨイトマケをすると、船は次第に砂浜に上って来る。昔はなんでも船で取引きされたので、食野家はもちろん私の家も海に面していたのでしょ。松原が大阪湾の輪廓をそのままに円く画いて果てしなく、向いの淡路島が鯨のように静かに横たわり、夕映えのことに美しいのが佐野の海岸でした。

（らいゆう9号 53年5月発行）

## 火曜日の笑顔

職員 西 座 富 子

今日火曜日のお弁当の献立ては、鶏の竜田揚げ、トマトとボイルキャベツでした。皆んなで手わけして竜田揚げの下ごしらえ、付け合わせのトマト、キャベツを刻んで湯煮、お昼の食事に間に合せようと懸命です。揚げ物は口に入れやすい大きさに、辛すぎない味付けを、揚げぐあいは、キャベツのゆで加減は、これでいいだろうかなど、あのおじいちゃん、このおばあちゃんの顔を思い浮かべながら、盛り付けも工夫して手順よく仕上げて行きます。さあ出来あがった、これで「おいしかった」、「やわらかくて」と老人の声が聞えて来るような気がするの、ひとりよがりではないと思います。

毎週の末が近づくと私は献立表をみて、次週の予想される料理を家で実習、試食してみることにしています。鶏やキャベツの切り方、味付け、ゆで加減など、日常の家庭料理は簡単に出来るのに、初めての材料や献立てのときには自信がなくて、幸い料理の好きな娘に教えてもらっているのです。ときには嫁いだ姉娘に電話で料理のコツを尋ねることもあります。おかげで最近では、お弁当向きのコツと言ったものが少しわかってきて、よほどのときがないと姉娘に電話することがなくなりました。

毎週火曜日は、お弁当を配って頂いたあとの反響がたいへん気になります。献立てを考えて調理し、配善をすませて頂いたあと、今日の内容と盛り付けは、どんな顔をして食べて下さっているだろうかなど、配達をして頂く人を通じて、老人の感想を聞くのがうれしいような、こわいような気がします。大切なことは、いつも食べる方の身になって献立と調理をし、まごころの味をお届けすることだと思っています。しかし、私も年々に疲れの残る日が多くなり、心の弱くなる日が多くなりました。そんなとき黙って助けてくれる主人の温い応援、子供達の協力と励ましがどんなに支えとなっていることか、いましみじみと有難さを噛みしめています。(らいゆう10号 54年9月発行)

## 来友館の概要

### 設備規模

敷地面積	1,629 $m^2$
建物面積	1,171.22 $m^2$
構造	鉄筋コンクリート造り4階建て
定員	50名
居室	50室
設備	食堂、娯楽室、サンルーム、医務室、作業室、浴室、事務室、 リハビリテーション室（建設中）

### ホームでの生活

給食	朝食7時30分、昼食12時、夕食5時
入浴	午後1時から（週4回）夏季は毎日
健康診断	看護によるもの 週1回 嘱託医師によるもの 月1回 保健所によるもの 年2回

クラブ活動：茶道、俳句、踊り、民謡、習字、手芸、園芸、将棋、囲碁、  
カラオケクラブなど

### 恒例行事

1月	新年会（15日）
3月	春の1泊旅行
4月	お花見歩こう会
5月	開館記念日（28日）
7月	夏の1泊旅行
9月	入居者の家族会（15日）
10月	神社仏閣歩こう会
12月	忘年会
毎月	誕生会

# 来友館のご案内



ホームの玄関

ホームのロビー



事務室

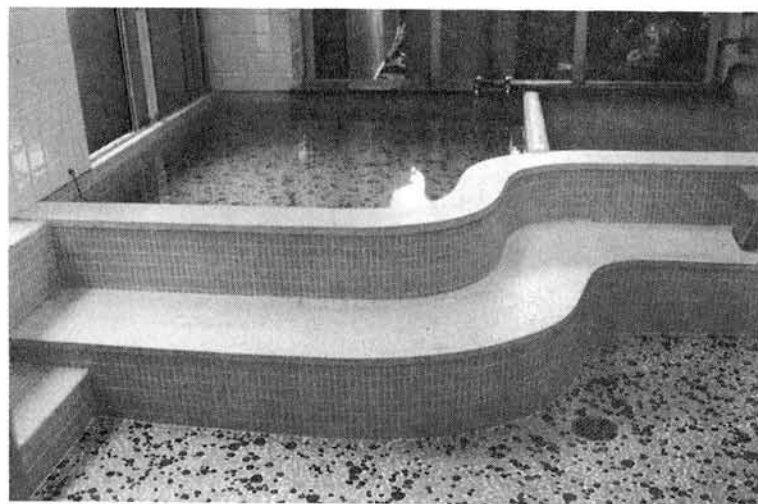


# 来友館のご案内



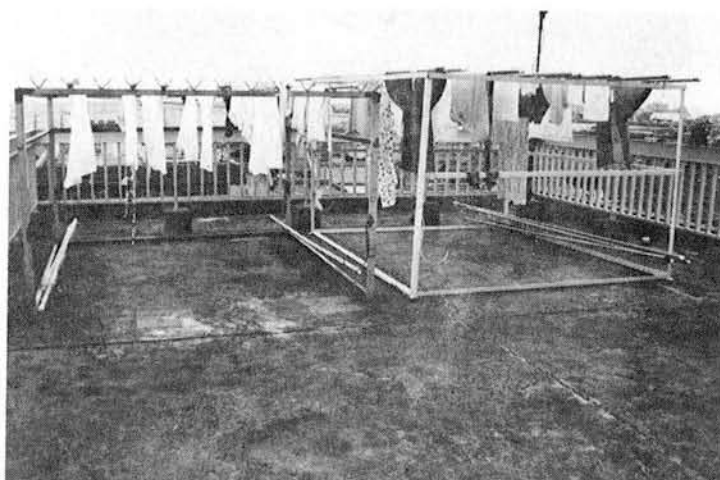
食堂

浴室



調理場

## 来友館のご案内



4階の物干場



2階への階段

1階居室への通路

## 来友館のご案内



ホーム理事長宅での理事会



屋上の園芸場



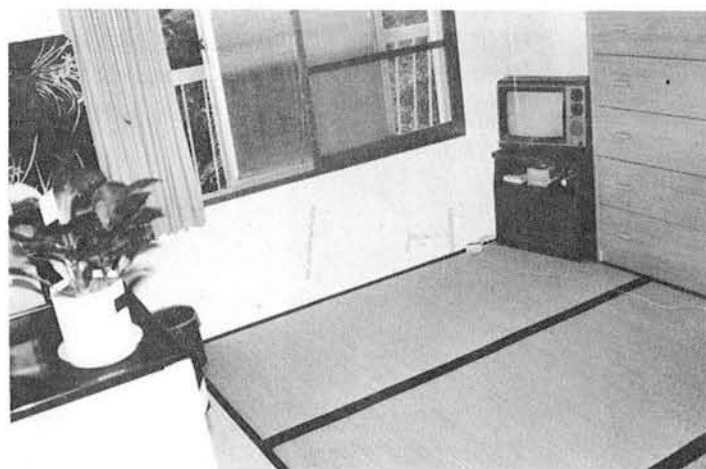
4階の喫茶室

## 来友館のご案内



玄関ロビーの喫煙室

敬老の日には職員も  
演芸に一役

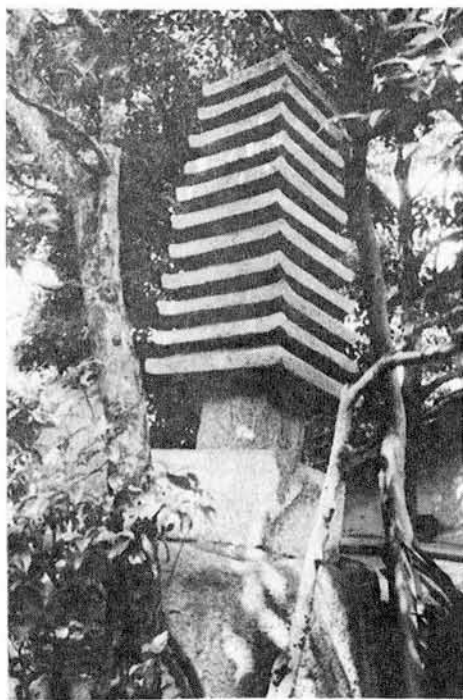


入居室

美しい来友館の庭



美しい来友館の庭



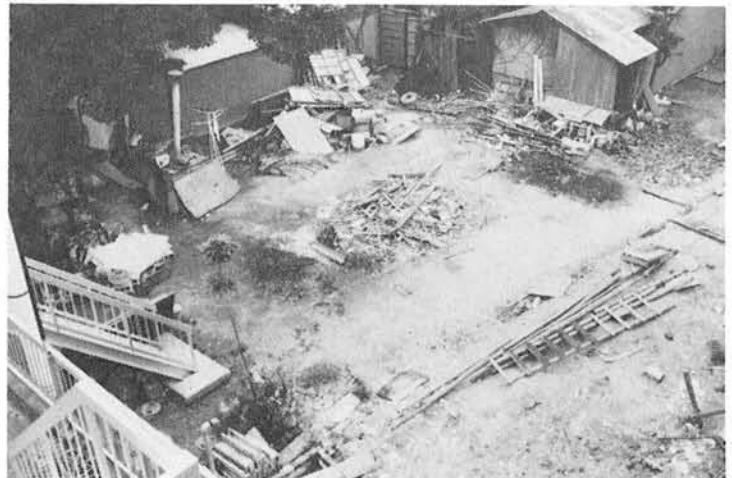
## 記念事業でリハビリ室の建設

来友館の開館10周年記念事業として、リハビリテーション室の建設計画を進めています。すでにホームの隣接地の整地が終り、9月には2階建て延60坪の規模で着工し、9月に完成の予定です。泉佐野には中風などの後遺症を治すリハビリの施設が不足しているように感じられるため、完成すれば地域社会との輪が広がることとなります。1階がリハビリ室の設備と、独居老人への配食事業の基地として利用し、2階には入居4室を新設する計画です。



リハビリテーション室  
予定地から見た来友館

中央競馬社会福祉財団  
京都馬主協会の、補助  
金で建設されるリハビ  
リテーション施設予定  
地



開館10周年記念式典(5月28日)



あいさつする  
西座正蔵理事長

祝辞をのべる  
泉佐野市長  
向江 昇氏



一 開会の辞  
一 館長挨拶  
一 記念品贈呈  
一 来賓祝辞  
一 入居者挨拶  
余興



お祝いの言葉を  
のべる  
府会議員  
植野 一氏



# 開館10周年記念式典



入居者代表で  
あいさつする  
岩本五月さん

サントリー出前寄席の  
公開録音で熱演する  
若葉トリオ

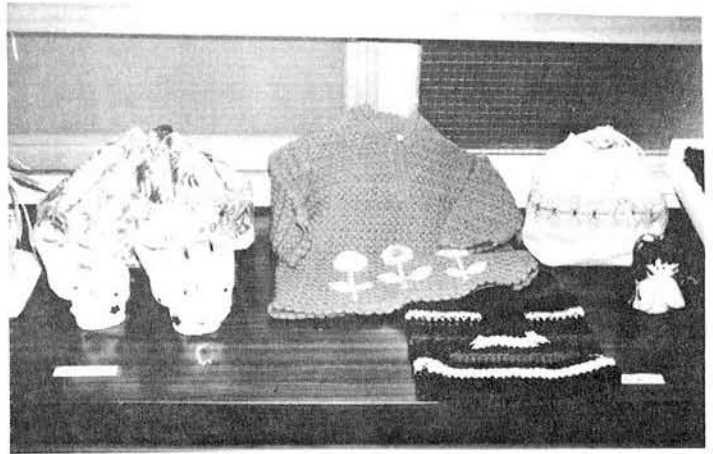


舞台狭しと  
コミックな演劇を  
する

サムライトリオ



開館10周年記念展示



# 泉佐野市歌

番匠谷英一 作詩

藤山一郎 作曲

早くならぬように

The musical score consists of six staves of music in C major, 4/4 time. The lyrics are written below the notes. Dynamic markings include *f*, *mf*, and *P*. The lyrics are:   
 1 い ず み 佐 野 は ん え い の ま -   
 ち こ う り ゆ う の に ほ ん の い ぶ き   
 ひ に つ き に さ ん ざ う お こ り た く   
 ま し く き ん ろ う た た え た   
 か ら か に み ら い を う た う は ん   
 え い の ま - ち い ず み 佐 野

## 泉佐野市歌

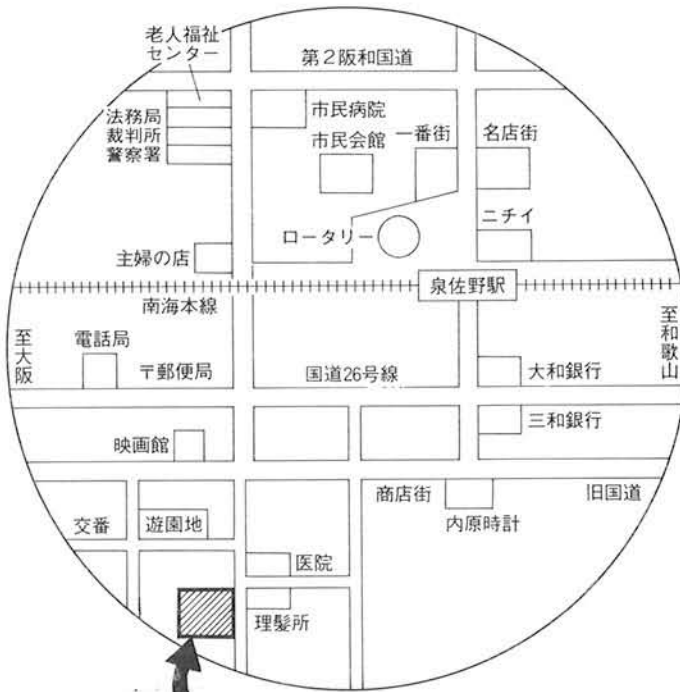
作詩 番匠谷英一  
作曲 藤山一郎

			一、																		
躍 <sup>あ</sup>	目 <sup>ま</sup>	朝 <sup>あ</sup>	茜 <sup>あ</sup>	泉 <sup>い</sup>	景 <sup>け</sup>	塔 <sup>た</sup>	社 <sup>し</sup>	見 <sup>み</sup>	犬 <sup>いぬ</sup>	泉 <sup>いづみ</sup>	伝 <sup>でん</sup>	文 <sup>ぶん</sup>	諸 <sup>しよ</sup>	大 <sup>だい</sup>	泉 <sup>いづみ</sup>	繁 <sup>はん</sup>	た	た	日 <sup>ひ</sup>	興 <sup>きよう</sup>	泉 <sup>いづみ</sup>
進 <sup>しん</sup>	ま	は	潮 <sup>うしほ</sup>	佐 <sup>さ</sup>	野 <sup>の</sup>	の	び	の	さ	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
の	か	る	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に
市	る	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に
野	す	り	原	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野

「市制15周年記念制定」

〒598

大阪府泉佐野市春日町2番7号  
南海本線泉佐野駅より300m 弱  
電話 0724(62)1848・(64)0646



軽費老人ホーム

## 来友館

当施設の所在地は上の図の様に交通至便で市街地の中心部にあり、しかも閑静な環境で300坪の庭園を持って居ります。

社会福祉法人 来友会  
軽費老人ホーム 来友館

〒598 大阪府泉佐野市春日町2-7  
TEL (0724) 62-1848